男子、宿願のロス出場権獲得！

アジア予選を振り返って

日本協会専務理事　大野金一

選手諸君、おめでとう

何をおいても先ず第一に選手諸君の健闘を讃えたい。とくに、絶壁の崖っ淵で踏んばって勝利をものにしたということは、その喜びもさることながら、この体験は、余人をもってしては得られない貴重な宝物である。

選手の半数はモスクワ・オリンピック代表選手で占められているように、試合経験の豊富さにおいては、中国、韓国の比ではない。総体的な技術は一枚も二枚も上であって、終ってみれば、順当な勝ちと言えないことはない。したがって、どん底から這い上がったという表現は当たっていないと思う。

しかし、'82アジア大会で中国に敗れ、'83アジア選手権では、肉体的疲労のどん底で戦わせるというコーチングスタッフの強化方策があったにせよ韓国に初の敗北を喫し、常勝常勝から一転して追う立場に回ったことから、この1年間選手には非常な戸惑いがあったと思う。これが対韓国第1戦大垣市）に見られたように、リードされているときはもちろん、追いついてリードしたときにも、勝とうあるいは勝たねばというあせりが先立って思わぬ敗北を招いてしまう。

しかし、こんな中途半端な感じでこの予選を落としたら、何のために長丁場の強化合宿を耐え抜いてきたか分らないことになる。その夜宿舎では選手だけで長時間のミーティングがもたれた。黙々と練習を重ね、当日の試合では控えだった選手から「いつもの力を全然出していないではないか、それくらいなら自分を試合に出させてくれ」と涙ながらに訴えられた主力選手たちも、はっと打ちのめされたように何かを把んだ。みんな涙で奮起を誓い合った。

これが市川での対韓国第2戦につながった。KG井藤が正に瀕死の獅子奮迅の闘いをすれば、ベテランの蒲生、山本、池ノ上、生駒が燃え、本大会のスターにのし上った西山が炸裂する。同じ人間が5日前とは全くの別人に変ったようだ。〝何か〟を把んだ選手たちは、怒濤の勢いで最終戦の中国を突き放した。

人間は弱い。己との戦いに敗れれば結局他に転嫁する。いかなる場合でも己の逃げ道を作らない、という市原イズムが最後になって実を結んだ。それまでに野田コーチのカミナリは何度落ちたことか。今回の逆転は正に和の勝利の一語に尽きる。

女子も大健闘

男子優勝の陰に隠れがちであるが、女子チームも頑張った。前回の世界選手権アジア予選以後殆ど選手が交替し、ここ1年がちょうど過渡期にあたる。従って候補選手も流動的で、このアジア予選までにチームの態勢が整うかどうか危ぶまれる時期もあった。ところが、井監督以下のコーチングスタッフが短期間によくまとめた。勝敗よりも、日本が中国、韓国にどこまで食い下がれるか、というのが私の内心の偽らざる気持であったが、直前のヨーロッパ遠征を経てチームは充実してきた。

今大会の第1ラウンド、中国に同点まで追いついてからチャンスをものにできなかったという不満は残ったが、第2ラウンド、調子の出てきた中国、韓国に対し、力の限りを尽して走り回って、対等の戦いをした。後で敗血症と診断された西選手も怪我を押して奪迅。しかし、主砲がこの一門だけではこれが力の限界。宿舎の女将も、電灯を消して布団の中で泣いている選手たちが哀れで、何とも慰めようがなかったと述懐していた。

今後の課題

かくて、オリンピック予選は、いろんなドラマを残して一先ず終った。その裏には、表には出ない多くの裏方がいた。

渡辺慶寿強化部長の先見と英断で男子チームにつけたチームドクターの高橋ドクターと加藤トレーナーも選手団の枠には入れなかったが、市川で韓国FPとの衝突で靭帯損傷を受けたGK井藤に対する両ドクターの適切な処置がなかったら試合の結果はどうなっていたか判らない。

試合日程の関係で名古屋会場をキャンセルせざるを得なかったが、愛知県協会の方々が、四日市、岐阜大会のコーディネイトを日本協会に代わってやってくれた。

日本開催の決定が大詰めの7月大会直前のクウェート棄権による1回総当り制から2回総当り制への切替えなど、最後まで振り回された今回の予選も、各会場地の協会の献身的な協力で大成功裡に終了させることができた。とくに函館会場では函館ハンドボール協会松木会長を先頭に市を挙げて、全面的に女子大会を運営していただいた。この裏方の人達が男子のオリンピック出場を心から喜んでくれた。代表選手にとっては何よりの励ましになるであろう。

年が明ければ、心も新たに、ロサンゼルス・オリンピックに向けた強化と、長期的には高校生対象の強化合宿から小学生へのハンドボールの普及まで、課題は山ほどある。引続き大方のご指導とご協力をお願いする次第である。

『ハンドボール』

58年12月号（第225号）目次

オリンピックアジア予選を終えて・・・

短かくて長く 長くて短かい道だった

日本ハンドボール協会
強化部長　渡辺　慶寿



かつてない大観衆の祝福

試合終了前、観衆の大声援「5、4、3、2、1、0」会場全体が一度に喜びを爆発させた。選手達も勝利の瞬間を待ちに待った。最後の最後まで戦い抜いた。試合終了寸前、主将山本のシュートが決ったと同時に、ロスアンゼルス・オリンピックアジア予選の全ての勝負は完了したのである。

中国選手が互いの健闘を賛える握手を日本選手に求めて来たが、日本選手は全員自軍のベンチに駆け寄り、全くの興奮状態であり、中国選手に無礼の一幕もあったが、それらは直ちに打ち消された。市原監督をはじめコーチ達が次ぎ次ぎに選手達によって胴上げされ次いで、山本、蒲生、GKの伊藤が宙に浮いた。

日本のハンドボールチームがかつてこれだけ観衆に祝福され、選手自らが勝利に酔ったことがあったであろうか。この勝利の道は決して平坦な道程ではなかった。短かくて長い道長くて短かい道であった。

今年の4月市原則之監督が就任、5月の初めにコーチの近森、野田、一宮の三氏を選び5月中旬にロス、オリアジア予選にむけての選手16名を決定、第1次合宿を大同製鋼、ブラザー工業を皮切りに第2次徳山、第3次日体大、第4次日新製鋼、そして7月にフランスナショナルチームと対戦し日本の現勢力の小手調べで3戦2勝1分となったが、内容は決して満足できるものではなかった。11月にひかえたアジア予選に不安な材料がのこった。

コーチングスタッフは、フランスナショナルチームの後を追い韓国に渡り、韓国チームの分析を在韓中熱心に議論した。この時点で韓国チームの速い動きに対して日本チームは十分に勝算ありと判断した。

8月の中旬函館合宿をおこない9月1日より9月18日西独、ユーゴを転戦この期間日本協会として初めてドクターの参加をお願いし、高橋義男氏に全日程随行していただいた。その成果は大きくドクターの献身的な働きにより選手達の信頼を深めた。これもドクターの人格とチームに対しての情熱であると考える。

帰国6日の後、チームは第3回アジア選手権大会へとソウルに向け大阪より出発。この大会では、結局地元韓国と優勝を競うこととなるが、韓国の若い力に6点差で屈した。帰国後計画通り反省合宿をおこない韓国戦の敗因と今後の対策をチームは十分に練り、赤城国体後より、アジア予選に向け最後の仕上げに日新製鋼、大同製鋼本田技研へと合宿に入り予戦の準備をおこなった。

予戦2日目に日本チームは韓国チームと対戦、ソウルの仇は大垣でと十分な意気込みであったが、目的を果すことができず多くの人達を落胆させた。のこすは次の結果に期待をかけるしかなく舞台は東京へと移った。

チームの目標は、ロスオリ出場を目指すことは当然のことながら、対中国に勝利を得ることであり、4点差で勝利を得たことは、日本チームの今日に至るまでの重圧が少し溶けた感がある。

市原イズムが完徹

アジア予選の第2回戦、すなわち折り返りに入り、全勝の韓国は中国と2点差で終ったことは、日本に少なからず安堵感を与えてくれた。いよいよ最後の機会を韓国とどの様に戦うか、韓国戦を前にして、コーチスタッフ選手は、四つに組む心構えで戦に臨んだ。選手達は気魄十分である。観衆の大声援、結果は目に見えていた。選手と観衆は一体となり、勝ちたい。勝たせたい、勝ってもらいたい一つの和が市川市体育館を漲った。

韓国との6点差の勝利は、最終戦である中国に対して2点差以上



あるいは22点以上をあげればオリンピックの出場権を獲得することになる。チーム結成以来選手達の初めての笑みである。この6カ月間この笑みをみたことがない。それだけに市原監督をはじめスタッフ、選手達がこの一戦に全てを賭けていたことが窺える。

市原監督はもてる力を試合で発揮できるチームをモットーにチーム作りをしてきた。ディフェンスの指導を近森コーチがオフェンスの指導を野田コーチ、選手の一般的管理を一宮コーチが、選手の健康管理と救急処置を高橋ドクター、選手の身体調整を加藤トレーニングドクターがそれぞれ分担し予選に入った。

対中国戦1回目を機にチームの上昇ムードがみられ、折り返し戦は市原イズムが完徹されたといえよう。昨年のアジア大会で中国に敗れ、今年のアジア選手権で韓国に敗れ、アジアの王座を他国に譲らなければならなかった。のしかかる重圧は想像を絶するものがあったであろう。その重圧を乗り越えたことは、彼等をとりまく多くの関係者、ファンそして彼等自身であろう。市原監督は、常に自己管理を選手達に供用してきた。彼等はこれにこたえた結果の勝利となる。また現有チームは、中国や韓国とは絶体に負けない、必ず勝つ、その心念が天にとどいたともいえる。

希望を拡げた女子の活躍

女子は昨年より井萱監督のもとに強化が進められた、今年の強化は日本リーグやジュニアナショナル関係で男子に較べやや遅れてスタートをし第1次合宿は7月に入ってからであった。10月20日より11月8日までユーゴ、ハンガリーを転戦帰国後ただちにロスオリ予選地である函館に向い準備を整えた。

予選の結果は、中国、韓国に破れロスオリンピック出場の第一歩を果たすことができなかったが、収穫は十分にあったといえよう。戦前の予想では、地元の利があるものの最近の中国、韓国チームの向上は、目覚しいものがあり、日本チームは両チームに較べやや劣るものと予想されていた。しかし結果は敗れても次に来る日本チームに財産を残してくれたといえる。すなわち戦前の予想ではかなりの隔たりがあるものと考えていたが、強化の方法や選手の発掘の状態によっては、次の機会にはある程度の挑みが考えられることである。

現在の戦力をいかに戦わせるかは井監督の最大の課題であった。井イズムを忠実に受けとめて指導分担を全うしてくれた樫塚、白神、カーヤコーチ達は高く評価されよう。

今年の強化目標は飽までも男女のアジア予選に勝つことで、焦点を一点にしぼって来た。私が強化部長として就任して幾つかの障害があった。一つは男女の強化組織の問題であり女子については、近藤金博氏を委員長としてお願いをしたが、男子については委員長を私が兼任したことである。組織上からみて大変不自然ではあったが、現場の体制が整ったからには出発せざるをえず、いわば片肺飛行の状態といえる。2点目は組織の運営の仕方である。アジア予選の勝利を最大の目標と定めたが組織がある以上組織を動かすことが私の技量といえよう。しかしこの面についての精力は使わなかったことは事実であり、予選後の強化部活動の働きは皆無といってよい。

橋本ドクターの功績

男子については幸いにもオリンピック出場を果すことができたことは、スタッフ、選手多くの関係者のお蔭であることはいうまでもない。しかしこれらの働きによる成果を今後生かしていくためには、思索や活用がなければ折角の働きを無にすることになる。

たとえば、男子チームに対しての、ドクターの働は、高く評価されよう。現在のドクター制については橋本雅夫ドクターの働きによるものであり今後選手達の健康管理等の必要性を考えると組織の充実をしなければならない。

強化部のなすべき仕事は限りがない。長期展望にたって、強化策を練らなければならない。当面男子については、ロス五輪での成果を挙げられるが、長くは指導者の育成、国際的に通用する選手の発掘、日本チームが一層アジアで優位に立つことができ、しかも世界で対等に戦えるためにはどの様にすべきか組織の力を委ね、真剣に討議を重ねすみやかに方策を打ち出すことが急務であると考える。

天の声、地の利 そして人の和の勝利！

日本ナショナル・チーム
男子監督 市原則之



興奮から感謝の気持ちへ

11月20日、東京、駒沢体育館において、私は、私の数年間のハンドボール生活の中で、初めて体験する興奮と、体の中からわき上がる喜こびの中で、この予選にかけてきた私達のこの日までのことが、頭の中をかけめぐったのでした。

そして、その喜びを体中で表わし、観客と一体になった選手達の勝利の叫びを聞きながら、私は心の奥底から、これまで共に頑張ってきてくれた、コーチングスタッフ、そして選手諸君への感謝の気持と、私達を支援して下さった、協会関係者、そして、全国の数多くのハンドボールファンの皆様への感謝への気持と変っていったのです。

去年、アジア大会で中国に敗れ、追われる立場から一転してチャレンジャーとなった日本のハンドボール界で、今年5月、新しくナショナルを結成、私とコーチングスタッフ、選手、三身一体となって、このオリンピック予選を、最大かつ、最終目的とすることを誓い合って6カ月、その間、アジア選手権で、韓国に敗れ、この予選が、私達にとっても、全国のハンドボール関係者にとっても、いかに苦しい戦いであったかは言うまでもないことでした。

しかし、私にとっては、この11月のオリンピック予選をいかに戦うか、これが私に課せられた唯一のテーマだと確信し、それまでのいかなるものも、そのための一過程にすぎないものと考えていたので、アジア選手権の敗戦もそれにすぎない、最後の本番で選手達は必らずやってくれると信じ、自からの考えを推し進めていったのです。つまり、最後に勝利を得るには、いかにその過程を送っていくかが、私にとって最大の課題であり、それを、いかに最終目的に結びつけなければならないかが最も重要なことと考え、その中で、アジア選手権を目前にしてヨーロッパ遠征を行ない、しかもその遠征の中で、ほぼ毎月のようにゲームと、1日3回におよぶトレーニングを課し、西ドイツで、ユーゴーで、選手をボトムの状態に追い込み、その中で、いかに自己能力を発揮出来るか、いかにゲームに対応出来るか、そして逆境に打ち勝つ精神力を養ない、ゲームに対しての闘争心を作り上るように心掛けました。

不死鳥の如く甦る

そして帰国後、わずか4日で韓国、ソウルで行なわれたアジア選手権にと、強行軍の中で、選手の中には身体的、精神的に完全に最低ラインまで落ち込む者も出る状態の中、決勝戦で韓国に完敗するという、最悪の予想結果に終りましたが、この苦しい体験が、オリンピック予選に入り、2試合目、韓国に敗れ、絶対絶命と言われたピンチから、不死鳥のようにチームが立ち直る力になったものと信じています。

アジア選手権で韓国に敗れた私達の前途を関係者の皆さんは、きっとオリンピック予選にむかって暗雲のたち込める思いだったと考えます。はたから見ていて〃市原の考え方は〃〃市原のやり方は〃と不安であったことと思います。しかし、もしオリンピック予選に敗れていたとしても、私の選んできた道、そしてそれを信んじて頑張ってきたコーチングスタッフ、選手の予選にかけた努力は間違いのなかったものだと確信しています。

そうした中、11月12日、オリンピック予選を迎え、緒戦中国台北には予想通り勝利を収めたもの の、2戦目、大垣市での韓国戦で、ふたたび苦杯をなめさせられ、苦しい展開となってしまい、今後いかに戦いを進めていくべきか大きな問題をかかえこんでしまいました。しかし、その敗戦の中で常々言ってきた「敵は何よりも自分達自身の心の中にあるのだ」と言うものが目の前に現われ、これを打ち破れば、必らず勝るんだという気持が、チームの中で選手とスタッフが今まで以上のまとまりを見せ、必らず目的を成し就げられると確信をすると同時に、あの敗戦の中、ともすればこみ上げてくる怒りをおさえ、心からの激励の言葉に変え、一言の苦言も発しなかった協会関係者、そして、オリンピックの夢を打ち消されながらもつい先日まで全日本のリーダーとして頑張ってきた津川君の後輩を思う激励は、この後の戦の中で大きな役目を果たしてくれたもので

オリンピックアジア予選を終えて…

した。
　そして、この敗戦は、私達がオリンピック出場までに、いかに苦しみを味あわなければならないかと現実に思いしらせた、大切な戦いでした。

第5戦の韓国に全力を

　この教訓の中で、第3戦、中国にアジア大会の雪じょくを果たし、もう一度、韓国とオリンピック出場をかけて戦えるチャンスを作った時、今までアジア選手権から上昇気流に乗ってきた韓国のその勢いに、多少かげりが見えてきたと判断した私は、第5戦の韓国戦に、全てをかけるべく選手に檄をとばした。


オリンピック出場権を得て市原監督を感激の胴上げ

　試合は、私達がチームを作って以来、対韓国戦3戦目にして、私が、そしてコーチングスタッフが考える通りの試合運びとなり、途中ゴールキーパー井藤の負傷というアクシデントをも乗り越え、韓国に雪じょく、しかもそのスコアー、25対19は、奇しくも、私達が韓国でアジア選手権で敗れたのと、同スコアーという結果でした。
　この一戦で、オリンピックへの道は、私達に大きく開かれ、最終戦、中国に対しても、選手は私達の考えていた通りのゲームはこびで、ついに夢にまで見たロサンゼルス・オリンピックへとゴールインすることが出来たのです。
　振り返ってみますと、私達の勝利は、ただ単に私達の実力と言うよりも、総てにおいて、天の声、地の利そして人の和があったように思われます。
　クウェートが不参加を表明し、4チームになったとき、いち早く2回戦総当りに変えたこと、そして、四日市、大垣、東京、相模原、市川と私達に熱狂的に声援を送ってくれた、ハンドボールファン、各地で暖かい心づかいで激励し、私達の不安をはらって下さった、協会関係者、これらが私達が勝つことの出来た大きな要素であることは言うまでもありません。そして私達がつかんだ勝利は、ただ単に私達だけのものではありません。
　これは日本のハンドボール界、全てがつかんだ勝利だと確信しています。

ロスの空に日の丸を

　今、日本のハンドボールはアジアの伝統国として、アジアの代表として、ロサンゼルスにむかって大きく歩を進めようとしています。今度はこの予選の興奮を、ハンドボールファンだけではなく、日本の全ての人に分かち会えるように、今まで以上の努力が必要だと痛感します。しかし目標を大きく、そして日本のハンドボールの力を世界に示し、日本のハンドボールを愛好する人達の夢と希望を生むことの出来るナショナルチームとして、ロスの空に日の丸の上る日を目指し、これからも頑張っていく覚悟でいます。
　最後に、もう一度、熱烈な声援を下さった各地の皆様、日本協会関係者の皆様に心からの感謝を表わすと共に、今後の御支援をお願いをし、この文の終りとします。

●オリンピック・アジア予選を終えて

日本女子が残した課題

―精神的に強靱な選手の育成を―

オリンピック・アジア予選で、日本女子は韓国、中国の厚いカベを破れず、念願のロス行きはならなかった。しかし、アジア予選を日本で行なった意義は大きく、またその試合ぶりからも、今後に大きな希望をもたらしてくれた。アジア予選の各試合を振りかえりながら、日本女子に与えられた今後の課題を検討して、将来の飛躍を期待しよう。

日本開催の意義・大会運営

函館での大会、受入れ、大会運営ともにベストで、国内ではこれ以上の環境は考えられないほどで、中、韓両国スタッフ、選手も同様の意見であった。練習時間その他にも充分の配慮で、他国での大会では目に見えるマイナス分がなかっただけでも日本開催の意義は充分であり、北海道、とくに函館市民の聖火リレーや開会式、前夜祭そして大会期間中を通して小、中、高校生が多く観戦してもらえたことが今後大きくハンドボールの普及に役立った事と思えた。マスコミ関係の取材、報道も多く、われわれの成績でそれらの姿勢に充分報いられなかったことが残念でした。

ゲーム経過寸評

▽第1戦

日本 19（9－13, 10－12）25 中国

後半17分このゲーム初めてタイスコア16－16に追いつく。しかしこれから3分間の短い中で速攻のパスミス、ローリングのボールをカットされる痛いミスが続き、3点のリードを許し勝負が決まる。石井のステップシュートがよく決まったが及ばず。

▽第2戦

日本 18（7－8, 11－12）20 韓国

ゲーム開始直後2点連取、リズムをつかみかけるがもう1本というたたみかけの場面で第1戦同様のミスで追いつかれる。双方とも同じく凡戦。その後も一進一退をくりかえし、サイドの柳に個人技でポイントされ2点差を返せず2敗。

▽第3戦

日本 23（10－13, 13－15）28 中国

今大会の目標であった22－25得点に3戦目でやっと達したが28失点。腕の外傷でショートタイム登場の西が奮起して6得点、ムードが良くなったところで得たペナルティを3本外して勝機を逸す。

▽第4戦

日本 19（8－12, 11－14）26 韓国

最終戦9点差を開いて勝てば勝率で中国を上廻れる韓国。エース尹にボールを集める展開となり、5分過ぎからは完全マンツー。あせり気味で攻撃がチグハグになる場面もあったが日本もリーダー格の薮田、石井の固さが抜けず敗戦。わずかに増永、前田、岩村、寺沢の若手がこのゲームの7割5分の14点を取ったことが各試合を通して頑張ったGKと併せて数少い明るい材料といえる。

分析

〔攻撃〕

増永の鋭いカットインプレーは4戦すべてに通じ、チーム一番の16得点はすばらしかった。しかし両45度のアタッカーであり、チームのリーダー格の薮田、石井が2人で24得点で1ゲーム平均6点ではあったが勝負どころでのポイントが少なく、リラックスする攻撃

を狙うチームの重要なポジションで固さがとれず、リーダーシップも発揮できないままに大会が終った感じで、ヨーロッパ遠征で各ゲームで果した22—25得点到達ができず大きい敗因といえる。前田、岩村そして負傷をおして短い時間を出場した西は一応評価できるが、単発な点で勝利に貢献できなかった。

大型ポスト岩村を配した布陣は両国にやや戸惑いを感じさせたが、前述のアタッカーの動きが悪いため効果をあげるまでには至らなかった。昨年5月の反省材料であったアタッカーの養成が今回も果せなかったが、大型アタッカーの出現こそ今の女子界に最も求められる点である。

〔速攻〕

展開はチーム結成時より数段の進歩を見せたが、キャリア不足からくる余裕のなさから生じる状況判断の拙さでオーバーステップやパスミス、悪いケースではカットされてそのままゴールに持ち込まれる場合がいくつもあり、それがまた同点、勝ち越しといった大切な場面で続出、勝機を失うことが多かった。ケースを数多く消化する、共通の理解を持ち合うなど、もっと時間をかけて取り組まねばならない部分と思える。

〔セットオフェンス〕

これも試みたものの成功率は高く、結論からいえば同一メンバーで何度も何度もくり返し、国際ゲーム等で試みながら鍛えてゆく性質のものであり、速攻同様時間が必要。左利きのプレーヤーの出現も不可欠の戦力である。

〔防御〕

0：6を主体に状況に応じて1：5マンツーと使いわけたが、防御の基本の徹底に甘さからくる弱さで相手の攻撃を充分に受けとめるだけの力に欠けた。これは国内の各チームにいえることだが、フットワーク、そして対応力、読む能力、位置通り、これらの防御に必要な基本技の練習が真剣に成されているのか。ややもすれば体格だけの大型化のみに専念して、大型化すればするほど必要となるフットワークやボディコントロールの強化が並行して行なわれているのかと思いたいケースがあまりにも多く感じられた。日本全体の問題として日本人の体格に適した防御方法を考え、徹底しなければ大型でスピードのある外国チームの攻撃に耐え得ることができず、点のとりあいのゲーム展開ではいかにも日本は不利であると思った。

〔GK〕

ゴールキーパーに関しては現在の国内のトッププレイヤーである矢部、井村をチームに復帰させたことで充分期待に応えてくれた。日、韓、中の中でも日本のキーピングテクニックは光っており再三のピンチを救ったことを特筆したい。今後の課題は次の全日本のゴールを守るにふさわしい人材が少ないことがなやみであることと、速攻展開力のパスの技術をもっと進める必要性を感じる。

〔結論〕

全日本のチーム構成には大きく考えて二つの方法があり、今回は各チームから平均的にピックアップする方法でチームづくりを行ったが、これは裏を返せばどのチームも小粒で、同じレベルで出色のチームがなく、主体性を持つに至らなかったわけで、韓国、中国の先発メンバーが昨年とほとんど同じであったのに比して日本は2人がわずかに残り、それもなかりレベルダウンの成績では、とくに中国が同じメンバーで国際的にキャリアを積んだ分差があり、肝心なところでミスで自滅した日本と対照的であった。苦しい場面でのチーム力としての対応は主体性のあるチームの底力に期待したいところであり、また他チームのエースが即他チームで100%の力が発揮できるのか、あるいは主体チームの8、9番目の選手との力の比較など、今後の課題は多いものの、国内の各チームがどこに主体性をもっていっても充分にその期待に応え得るようなレベルアップを当面期待したいものです。

大切な場面で日頃の力が発揮できなかった精神面の問題とデフェンスの強化が果せなかった件は、スタッフのチーム把握力の問題と練習プログラムの内容の問題で、敗戦の最大のもので、スタッフの責任を痛感しています。

今後の方針として考えられることは、次の世界選手権大会予選、そしてソウルオリンピック予選の二段構えの中で少しの部分では段階的でも大筋ではあまり変らないメンバーで、数年の体験を積み上げることが大切であり、どこかのチーム（現時点ではとくに見当らない）に主体を持たせてそれに必要な部分の強化を他から補う方法が最善ではないか。つまり主体になるチームの日頃の練習が即全日本の主体の部分の練習である、そんなシステムでなければアジアといえども国家養成選手の色彩の強い中国、韓国に対等に強化をすすめるには時間も経済的面も及ばないと思います。そして精神的に強靭な選手の育成も各チームがそれぞれに工夫して実現してもらいたい大事なことだと思います。



オリンピック・アジア地区予選



戦いの跡

快！日本〈男子〉ロス五輪へ羽ばたく

強敵 韓国 中国を撃破 劇的な出場権獲得

日本はついに宿願のロサンゼルス・オリンピックのキップを手にした。11月20日、先きの韓国戦に快勝、中国戦に2点差以上で勝てばロス五輪アジア代表となる日本は、のしかかるプレッシャーをはねかえして、中国を圧倒、駒沢体育館につめかけた大観衆の声援に応えて巧守に素晴らしいプレーをみせ、粘る中国を27―20で突き放し、みごとな勝利。それは全選手、監督、コーチ、そして大観衆が一体となってロス五輪への道をきりひらいた戯的な一瞬だった。そしてまた日本ハンドボール界の歴史的な勝利でもあった。

▽11月12日（四日市市体育館）

韓国 24（10―7、14―10）17 中国

得	【韓国】		【中国】	得
0	安晋洙	GK	謝継勇	0
0	林圭夏	GK	孫　鉄	0
2	林英喆	FP	金百煉	3
10	姜泰求	FP	韋和平	0
1	姜徳寿	FP	呉明群	3
1	朴英大	FP	高忠信	1
0	鄭東鎮	FP	王　雄	5
0	姜世容	FP	張国英	1
5	崔太燮	FP	蔡建国	3
1	朴秉洪	FP	胡エ東	0
1	姜在源	FP	江山明	1
3	李相考	FP	宋安文	0
24	(2)	PT	(1)	17

（審・PR ブチャダ・ラウハホス）

日本緒戦を飾る

日本 33（15―10、18―5）15 チャイニーズタイペイ

得	【日本】		【台湾】	得
0	大　畑	GK	王永泰	0
0	井　藤	GK	葉雅正	0
4	山　本	FP	陳木火	3
3	蒲　生	FP	張隆顯	3
0	中　本	FP	鄭高興	0
4	生　駒	FP	紀昭印	2
3	池ノ上	FP	蘇瑞昌	0
2	佐々木	FP	洪其輝	1
0	志　賀	FP	邱俊隆	3
2	松　井	FP	張簡坤明	2
12	西　山	FP	黄欽永	0
3	高　村	FP	卜元生	1
33	(3)	PT	(2)	15

（審・BZ・モスニカ・ホルバト）

日本、韓国に苦杯

▽11月13日〈大垣市総合体育館〉

韓国 24（16―12、8―8）20 日本

得	【日本】		【韓国】	得
0	大　畑	GK	安晋洙	0
0	井　藤	GK	林圭夏	0
2	山　本	FP	林英喆	5
2	蒲　生	FP	姜泰求	4
0	中　本	FP	姜徳寿	1
0	関	FP	朴英大	0
0	生　駒	FP	――	0
1	池ノ上	FP	姜世容	1
0	志　賀	FP	崔太燮	3
1	松　井	FP	朴秉洪	1
14	西　山	FP	姜在源	2
0	高　村	FP	李相考	7
20	(2)	PT	(0)	24

（審・BZ・モスニカ・ホルバト）

昨日日本は実力差の歴然としたチャイニーズ台北に楽勝したものの、相手が相手だけに手の内をさらけ出さず内容は今一つ鋭さを欠いた。韓国は9月ソウルでのアジア選手権に優勝し、昨日は昨年11月インドのアジア大会に優勝した中国に、気迫で主導権を握り、予

想外の7点差で勝利を収め、日本、韓国とも初戦を飾り幸先よいスタートを切った。

過去日本、韓国の対戦成績はオリンピックアジア予選、アジア予選、アジア大会、アジア選手権、世界選手権で8勝1敗と日本の一方的勝利に終っているが、その1敗が40日前であって、韓国チームのこの予選に賭ける意気ごみは、88年ソウル・オリンピックを控えているだけに凄まじいものがあった。

戦前の予想では、日本がアジア選手権の6点差をどのように縮め勝ち越すか、それには韓国の速い攻撃リズムと強引なシュート力を日本の防御陣がいかに守り抜くか、また日本が韓国のねばり強い防御陣を崩せるかにかかっていた。両チームの集中力がいつ切れるかが一つのポイントであり、その時がへばって守りの悪くなる時機ともいえる。開始前からベンチ観覧席はともに異常な雰囲気に包まれていた。

両チーム共、選手に固さを見られたが、開始45秒、韓国14番の李が強引にシュートを決める。日本も2分30秒速攻から西山が決め、好調な滑り出しをした。日本は攻撃パターンに欠けたものの、西山の力強いシュートが着々と決まった。

一方韓国は気負いすぎて速攻のミスを繰り返したのと、日本GK井藤の好守に阻まれて追いつ追われつ、一度として2点差が開くことなく8—8で前半を終了した。

前半を見た限りでは両国とも攻守は互角で個人的シュートの得点に終った。ただ韓国の勝利の執念からくる気負いのミスときたなさが目だった。

後半開始30秒、西山が前半の余勢をかって強引に決めリードしたが、その後5分間一進一退で10—10と並ぶ。5分30秒西山、6分蒲生が初得点し、始めて2点差をつけて押せ押せムードに乗って有利に展開するかに見えたが、ホッとした気持と、へばりからくるツメの甘さで、9分から3分間で4連続得点を許し、一気に13—15とリードを奪い返された。この辺で予想していた集中力の緒が切れたのかもしれない。

その後12分間交互に得点を重ね合い、対等に戦ったが日本の精神的、肉体的へばりに反し、韓国はリードからくる余裕で、ポストから加点し後半12—16とリード、結果20—24で終了、日韓第1戦は日本の敗戦に終った。

前後半を通じ、日本は蒲生を休ませられなかったことを含め、選手交替が苦しかった、反対に韓国は交替を多くして戦力アップを計った。平均年齢で日本が26.3歳、韓国20.8歳と体力的問題もあった。

そのうえ韓国は優勝すれば報奨金が出るとか、2年間の兵役が免除されるとかでっかい希望を持っていた。それに反し日本は2カ月前の6点差のハンディを背負って勝たねばならないという気持のあせりがあったともいえる。

前後半を通じ西山が気力の充実した神がかり的シュートで20得点中14点入れたことは立派であり、将来に大きな希望をもたらしたといえる。

韓国の14番李、2番林、中国戦で10得点した3番崔のねばりと突進力で切れ味のよいシュートはすばらしかった。

韓国の勝気からくるプレーのきたなさと接触プレーで、倒れた時にタイムを取りゲームの流れを変えるプレーは感心できなかった。

2回戦方式だから、今日は前半を終了したところ、後半(2回戦)にリードされた4点を追い上げる追う身の強さを発揮して逆転勝利を期待したい。

〈元全日本監督　村田　弘〉

中国 35 (19—10, 16—8) 18 チャイニーズタイペイ

【中国】	得		得	【台湾】
孫　鉄	0	GK	0	王永泰
——	0	GK	0	葉雅正
金百煉	2	FP	1	陳木火
韋和平	1	FP	0	楊曜銘
呉明群	3	FP	2	張隆顯
高忠信	7	FP	3	紀昭印
王　雄	6	FP	0	蘇瑞昌
王曜庭	1	FP	3	洪其輝
蔡建国	6	FP	4	邱俊隆
胡ヱ東	0	FP	3	張簡坤明
李景康	4	FP	0	黄欽永
宋安文	5	FP	2	卜元生
35	(2)	PT	(3)	18

(審・PR プチャダ　ラウハホス)

▽11月15日〈東京体育館〉

韓国 38 (21—12, 17—3) 15 チャイニーズタイペイ

【韓国】	得		得	【台湾】
安晋洙	0	GK	0	王永泰
林圭夏	0	GK	0	葉雅正
林英詰	5	FP	0	陳木火
姜徳寿	3	FP	3	楊曜銘
朴英大	2	FP	0	張隆顯
鄭東鎮	1	FP	4	紀昭印
——	2	FP	0	洪其輝
姜世容	2	FP	2	邱俊隆
崔太燮	7	FP	6	張簡坤明
朴秉洪	9	FP	0	黄欽永
姜在源	6	FP	0	卜元生
李相考	1	FP	0	張仁慈
38	(0)	PT	(0)	15

(審・BZ・モスニカ　ホルバト)

西山らの活躍で 中国第1戦を勝つ

日本 27 (13—15, 14—8) 23 中国

【日本】	得		得	【中国】
大　畑	0	GK	0	謝継勇
井　藤	0	GK	0	孫　鉄
山　本	4	FP	3	金百煉
蒲　生	3	FP	0	韋和平
中　本	3	FP	2	呉明群
生　駒	4	FP	1	高忠信
池ノ上	3	FP	5	王　雄
洞ガ瀬	0	FP	3	張国英
佐々木	0	FP	2	蔡建国
志　賀	1	FP	0	胡ヱ東
松　井	1	FP	3	江山明
西　山	8	FP	4	宋安文
27	(2)	PT	(4)	23

(審・PR プチャダ　ラウハホス)

日本は韓国との第1戦を失い、もうこれ以上一歩も後には引けない状態にある。東京体育館に姿を見せた全日本チームは、心なしか、いまひとつ元気がない。韓国は中国も大差で退け増々調子を上げ、まず五輪出場に王手を賭けたと言ってもよいだろう。

その中での全日本は中国とこの予選初の対戦となり、この一戦に敗れるようなことがあれば完全にロスへの夢は閉ざされることになる。恐らくスタッフも選手達もこの試合に必勝を期し、そして調子に乗せ、第2戦を迎えたいのは当然であろう。

試合は立ち上がり、日本がやや緊張気味かそれとも大事を取り過ぎているのか、動作に堅さがみられた。技巧派の池ノ上、豪快、生駒、それに若きポイントゲッター西山と連続してミドルを狙うがいづれもゴール・キーパーの好守に阻まれ得点に繋がらない。中国は3分30秒、王雄がきれいなフェイントから見事に決めて先取点、続いてPTも決めて、滑り出し好調。しかし6分、日本も生駒が強烈なシュートを決め、ようやく館内は沸き立つが中国もPTなどでリードを続ける。その後日本は西山の速攻、蒲生のミドル、続いて中本が決めて4対4と13分に追い着き、さらに山本がサイドから決めて5対4とこの試合初めてリード、この日調子の良い生駒が蒲生からの横パスをロングシュートで決め、7対5と優位にたつ。23分蒲生退場、その間中国も食い下がり1点と詰め寄るが、右サイドからまたも絶好調の西山が決め大きな穴をうめる。24分、生駒から、めずらしくサイドに廻った蒲生にパスが繋がれ、これが鮮かに決まって9対6となる。その後も日本は西山らの大活躍でたたみ掛ける

ように得点を重ね、14対8で前半を終了、このあたりからロスが微かにみえてきた。

後半開始直後、中国がPTを決めてスタート、その後日本も西山のミドルで15対7、その2分後、志賀から池ノ上に好パスが出て16対7、続いて主将山本がPTを決め、さらに6分蒲生が速攻と久々にロングシュートを決めて19対12とリードを続ける。完全に日本ペースで試合が展開され、暗いトンネルからようやく抜け出した感さえした。

10分経過後も、生駒、西山と得点、そして松井が絶妙なスカイを決めて大きくリードし試合は決したかにみえた。しかしその後、退場やメンバーチェンジをする間にミス等が続き、急に中国ペースへと移り、王雄らに連取され、さらには調子をあげる江山明のフェイント攻撃で連続得点を許し大量リードも束の間、4点差でようやく逃げ切った。

この試合、後半15分経過したところで10点差とリードしたが、16分から5連続得点を取られている。特に後半の後半では5対10と逆に大きな差をつけられているので、第2戦ではこの点を十分注意する必要があるのではないかと思う。しかしながら全日本はアジア大会敗戦後の試合であり、スタッフ、選手一丸となって奮闘し勝利を得たのは大変立派であった。第2試合の韓国戦に総てを賭け、どうしても五輪出場を日本ハンドボールの今後のためにも決めて欲しい。

（川上整司）



西山が豪快なシュートを見せ大活躍

日本、タイペイを連破

▽11月16日〈相模原総合体育館〉

日本 32（15－9／17－9）18 チャイニーズタイペイ

得	【台湾】		【日本】	得
0	王永泰	GK	井藤	0
0	葉雅正	GK	上村	0
6	陳木火	FP	山本	4
1	楊曜銘	FP	蒲生	3
0	張隆顯	FP	中本	0
1	鄭高興	FP	関	4
5	紀昭印	FP	池ノ上	6
0	蘇瑞昌	FP	洞ガ瀬	0
2	邱俊隆	FP	佐々木	5
2	張簡坤明	FP	西山	4
1	黄欽永	FP	高村	2
0	張仁慈	FP	田口	4
18		(6) PT (2)		32

（審・PRブチャダ、ラウハホス）

韓国 26（12－12／14－8）24 中国

得	【韓国】		【中国】	得
0	安晋洙	GK	謝継勇	0
0	林圭夏	GK	孫鉄	0
3	林英喆	FP	韋和平	1
1	姜泰求	FP	高忠信	7
4	黄德寿	FP	王雄	3
0	朴英大	FP	王耀庭	1
0	鄭東鎮	FP	張国英	0
0	姜世容	FP	蔡張国	4
1	崔太燮	FP	胡ヱ東	1
5	朴秉浜	FP	江山明	2
4	姜在源	FP	李景康	2
8	李相考	FP	宋安文	3
26		(2) PT (4)		24

（審・　）

▽11月18日〈市川市民体育館〉

中国 38（19－19／19－12）31 チャイニーズタイペイ

1回戦に勝っている中国は、ベテランの金百煉、王耀雄を外す余裕を見せてスタート、4分タイペイ14番卜元生のシュートで先制を許すも、5分すぎから、王雄、高忠信の連続得点で10分、5対3と試合の主導権を握り、身長差、豊かなジャンプ力から、速攻、ロング、サイド、ポストと自在な攻撃を展開、若いタイペイの左腕トリオを中心とする懸命の反撃を、要所で防ぎ、着実に差を広げ、前半で全員得点を記録、19対12で折り返した。

得	【台湾】		【中国】	得
0	王永泰	GK	孫鉄	0
0	葉雅正	GK	——	0
1	陳木火	FP	韋和平	9
3	楊曜銘	FP	呉明祥	4
0	張隆顯	FP	高忠信	6
4	鄭高隆	FP	王雄	2
11	紀昭印	FP	張国英	2
6	邱俊隆	FP	蔡張国	4
1	張簡坤明	FP	胡ヱ東	2
1	黄欽永	FP	江山明	5
4	卜元生	FP	李景康	3
		FP	宋安文	1
31		(3) PT (0)		38

（審・BZ・モスニカ、ホルパト）

後半に入り、中国が、岩手の韋和平、蔡建国で加点すると、タイペイは、長身・紀昭印のロング、カットインで8得点をあげる活躍で互角の展開としたが、前半の得点差を守った中国が、38対31で試合を終えた。

国名表記等で、しばしば問題になるカードであるが、試合は友好そのもので、あらためてスポーツのすがすがしさを印象づけた一戦であった。

（樋口利郎）

日本第1戦の雪じょく果たす

日本 25（11－10／14－9）19 韓国

自力優勝へ雪辱を期す日本は、GK井藤、前に中本、左から西山、生駒、蒲生、志賀、池ノ上、攻撃に山本、松井を投入する布陣

得	【日本】		【韓国】	得
0	井藤	GK	安晋洙	0
0	上村	GK	林圭夏	0
6	山本	FP	林英喆	3
2	蒲生	FP	姜泰求	4
1	中本	FP	姜徳寿	3
3	生駒	FP	朴英大	0
5	池ノ上	FP	鄭東鎮	0
0	洞ガ瀬	FP	姜世容	0
1	志賀	FP	崔太燮	3
2	松井	FP	朴秉洪	4
5	西山	FP	裵在源	0
0	高村	FP	李相孝	2
25	(2)	PT	(2)	19

（審・R ブチャダ、P ラウハホス）

で臨めば、韓国は、アジア選手権、1回戦の連勝で自信をつけた若手FPを、ベテランGK林圭夏で固めてスタートする。

日本は、軽いパスの交換から、山本のサイドシュートで先制すると、井藤のPTセーブをはさみ、西山、蒲生、松井の果敢な攻撃で4点連取し、5対1と固さの見える韓国に圧力をかける。

10分ポストプレーで得たPTを姜泰求が慎重に決めると、両GKの好守から互いに速攻が出、緊迫した展開となる。

会場がガンバレ日本の大歓声を送れば、訪日応援団の国旗と声援は、好プレーを連続させた。フローター林英喆、姜泰求、李相考のフェイントから中央へ切り込んでのミドル、外抜きからサイドのDFを誘い出してのノーマーク造りで追う韓国に対して、日本は、蒲生、西山へのマークの逆をつき前回不振の池ノ上が、ロング、カットイン、速攻と大車輪の働きを見せ、一進一退となるが、韓国のミスから松井、中本の巧ブロックから山本、速攻と3連取のスパートをかけ、退場者を出すも14対9で折り返す。

後半に入ると姜徳寿のポストで追えば、快調池ノ上がロングで連取し差を保つが、韓国のスピードに振り切られる場面が見られ主導権が移った4分、林の速攻を前につめた井藤が接触し、負傷退場すると、林、朴秉洪、李で連取の急迫すると、日本は生駒を投入、期待どおり強引なカットインからゲットするもムードは変わらず、ついに11分崔のカットインで、17対17と並び、1回戦の再現かと心配させたが、井藤がもどると林のPTを死守し全日本に活を入れる。

生駒の得たPTを山本が確実に決めると、セキを切ったように西山、志賀が速攻、山本、生駒、西山のカットインで6連取、試合を決めた。

井藤は勝負どころの12分から25分までにPT2本、ノーマーク3本を見事にセーブし第一人者の力を見せた。

両GKの好守も、ベテラン、若手一体になって活かした日本に対して、自滅した韓国の若さが目についた一戦であった。

この結果、日本は、残す対中国戦を2点差以上で勝てば、オリンピック出場と王手をかけた。

（樋口利郎）

韓国第2戦に勝ち五輪への道を開いた

日本、みごとに五輪キップ

日本 27（14−14 / 13−6）20 中国

「残り3、2、1」三千人を超す大観衆の手拍手と大歓声の中、ロス五輪にむけて、山本主将のステップシュートがゴールにつきささる。試合終了の笛も聞こえないほど、劇的なフィナーレ！。選手と観衆が一体となって、ロス五輪の出場権を獲得した好ゲームだった。

先日の韓国戦に快勝し、中国戦を2点差以上で勝てば、ロス五輪アジア代表となる日本は、代表権獲得への気迫がみられ、前半から中国を圧倒する。開始30秒、池ノ上のジャンプシュートで先制、1分にはエース西山のサイドシュートと2点先行する。中国も4分左腕金の中央から高い打点のシュートで応援、しかし日本は、6分山本がPT、7分には大黒柱蒲生が中

央から豪快なジャンプシュートを決め、一気に4対1とリード。中国は8分金から宗へのスカイプレーで流れをかえようとするが、ここで日本は、9分蒲生のカットイン、西山がたてつづけにカットインやジャンプシュートを決め、守っても、今大会好調の日本の守護神GK井藤の好守と積極的に前にでる攻撃的な防御で、中国を10分以降散発のみ4点におさえ、13―6日本リードで前半を終了。

後半、中国は日本のパスミスをつき速攻で先手を取るが、日本も中本のポストシュート等で得点をあげ、12分までに19―8と11点差をつけ、一方的な展開になるかと思わせた。しかし中国も、金、韋、呉を中心にねばりをみせ、15分過ぎ蒲生の負傷退場により、攻守の歯車に乱れを生じた日本のミスをつき、速攻からの速い展開でのポスト、サイドと多様な攻めをみせ、20分までの5分間に6点をあげる猛攻により、満員の場内をわかせる。

しかし反撃もここまで。GK井藤の再三にわたる好守、そして蒲生の復帰でリズムを取りもどした日本は、山本のカットイン等でつきはなし、27―20で快勝した。

ロス五輪まで残り6カ月、今後より一層の精進と努力で、ロスでの活躍を期待したい。

（宮沢恒夫）

ロスでのメダルをめざして

蒲生　晴明

はじめに、ロサンゼルスオリンピック予選に参加できる機会に恵まれ、また、勝ち抜くことができたことを大変にうれしく思っています。この日まで、育てていただいたハンドボール協会関係の皆様はじめ諸先生・諸先輩そして全国のファンの方々にこの誌上をかりて、御礼申し上げます。

さて、予選の半年前に、新生全日本としてスタートをしたわけですが、選手団は、市原監督のもとに「闘争力・集中力」を合言葉に短期間、短時間で中身の濃いトレーニングを心掛けてきました。しかし、何度も何度も、挫折しそうになりその都度、ミーティングで反省をして、約束をつくりそれを実行してきたことが、ロスへの貯金となって、最後には『お金では買えないもの』になっていったと思います。このトレーニング↓反省↓約束づくり↓実行のサイクルをくり返し、予選に臨んだわけですが、私自身として、こんなにプレッシャーを感じながら大試合を戦ったことは初めてでした。

しかし、スローオフのホイッスルが鳴ると、ファンの方々の会場一丸となっての声援と同時に、このプレッシャーは吹き飛んでしまい、トレーニングどおりの試合をすることができたと思います。

試合内容については、反省材料は多くあるものの、何といってもディフェンスでの全員の頑張りは、トレーニング以上のものが出ていたと思います。改めて、「ディフェンスは守る」のではなく「ディフェンスで攻める」を認識しました。

これからは、このディフェンスに、さらに磨きをかけ、オフェンスでの突破力を完成して、ロスでは、ヨーロッパの強豪をひとつでも多く破り、入賞さらにメダル獲得に意欲を燃やしたいと思います。

今後とも、御支援をお願いします。

ロス・オリンピック　アジア予選を終えて

山本　伸二

今年5月に現ナショナルチームのコーチングスタッフ及びメンバーが新しく組まれ、そして予選が終えた11月20日までの期間のいかに長かったことか！これが今私が痛感している正直なところであります。そしてまた、今は安堵感でいっぱいです。名古屋での第1次合宿を皮切りに、徳山、横浜、呉、函館、その他次々と合宿を重ね、その間には、フランスナショナルチームとのゲーム、欧州遠征、ソウルでのアジア選手権、そしてロス予選とめまぐるしく活動した半年間でありました。その中で、本場ヨーロッパ勢（西独、ユーゴ）にもまれ、アジア選手権では韓国に敗れ、そしてまた、今回の予選リーグの1回戦で、またしても韓国に苦汁を飲み……といったような短期間のうちにこれほど天国と地獄を体験したのも今までにはなかったことでした。

今思えば、この「酸いも甘いも」を経験してきたからこそ、今回の予選を乗り切ることが出来た最大の原因だと思います。このことは、日本協会の方々はもちろんのこと、ハンドボールにたずさわる多くの人々、そして全日本のOBの方々、全ての方々の応援（叱咤激励）のたまもの以外の何ものでもないと思います。本当に深く感謝しております。

これからの事は、現地点では全く考えていませんが、今後、私自身与えられたチャンスは、最大限生かしていかなければという考えを今なお持っていますし、また、やらなければならないと思っています。

今回のこの貴重な体験をもとに、今後一層努力していきたいと思います。

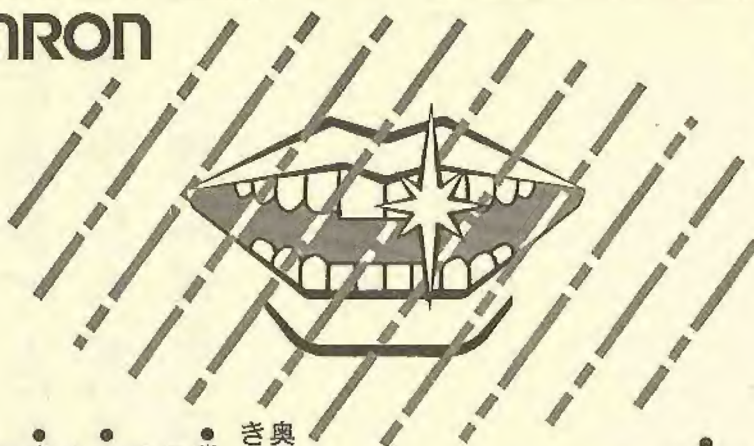
最後になりましたが、皆様の暖かい御支援、御声援、本当に有難とうございました。

今後ともよろしくお願い致します。

OMRON

「歯」キラキラ

シャワーで一日の汗を流すように、歯のよごれを落としてシェイプアップ!!

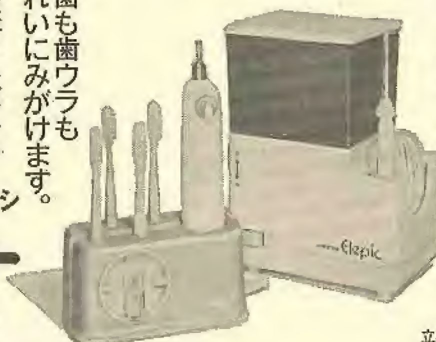


ジェット水流が歯と歯ぐきを守ります。

- ジェット水流が歯ぐきの健康によい適度な刺激を与えます。
- 食べカスを洗い流し、口臭を除きます。
- 水流はゆるくも、強くも調整できます。

奥歯も歯ウラもきれいにみがけます。

- 歯医者さんおすすめの、正しいみがき方ができます。
- 7倍の速さでみがけるローリング式です。
- 充電式だから、旅行にも便利です。
- 歯みがきの時間のわかる砂時計つきです。



オムロン電動歯ブラシ
エレデント
HT-B10 ¥6,480

オムロン口腔洗浄器
エレピック
HT-J11 ¥14,500

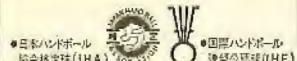
立石電機株式会社　〒616 京都市右京区花園土堂町10

molten





ごらんください 独特のリブ形状とパネル間段差。この"32面体ノンスリップ構造"で確かな手がかりをつくりだしたモルテンハンドボールは、さらにナイロン糸巻構造をほどこし、すばらしい耐久性、真球性をも実現して、日本ではじめて国際ハンドボール連盟(I.H.F.)公認を獲得。ハンドボーラーの圧倒的な人気と信頼を集めています。



「手がかり」が、見えた！

独自の32面体
ノンスリップ構造で、圧倒的人気を誇るモルテンハンドボール

モルテン ハンドボール

株式会社モルテン
東京本社　東京都墨田区横川5－5－7
〒130 ☎(03)625－7581

◆全日本学生選手権大会総評◆

低身長でも勝てることを実証した筑波大――男子

――勝負強さに面目躍如の日体大――女子

男子第26回、女子第19回全日本学生選手権大会は、昭和58年11月16日から20日まで仙台（宮城県スポーツセンター・仙台市勤労者体育館）で開催され、男子は筑波大学が初優勝し、女子は日本体育大学が2年ぶり12回目の優勝を遂げて閉幕した。

ハンドボールのおもしろさを見せてくれたインカレ

学生ハンドボールのよさは、若さの爆発と豊富な練習量からくるスピードと高度なテクニックである。最近はそれに加えてワンハンドプレーがすっかりと身につき、それがフットワークやボディコントロールの新たな技術を引き出してきている。ゲームはスピード化と多彩さに拍車がかかり、よりおもしろくなってきている。男子についてはワンハンドプレーが、全国的に定着したことによって競技力もかなり接近してきている。もう抜群に強いというチームはなくなり、その日の調子があるいはちょっとした作戦の当り外れが勝負の分かれ目となるようである。ここ数年のスコアを見ればそのことはわかることである。

今回のゲームでは、男子準決が2試合とも延長、決勝は1点差、昨年は準決、決勝とも1点差の試合を演じている。ゲームのおもしろさは、技術や戦術のすばらしさからくるものと勝負がどちらに転ぶかわからないという緊迫した状況に追い込まれることの両者が一体化すれば、こんなにおもしろいものはないであろう。

ここ数年はそのような状況が続いている。これは先に述べたように技術が全国的に向上したことやハンドボール競技が普及し、大学まで進んでやる人が多くなったこと、また、指導的な立場の人が増したからであろう。あるいは情報をビデオ等から容易に入れられることや、インカレの出場チーム選抜方法が1980年から変更されたことからくるものかもしれない。いずれにしても白熱する接戦が多く、プレーヤーも観衆もゲームのすばらしさを十分に味わえることのできるものである。女子は、男子に比べ、得点の上からは、実力差というものが感じられる。ここ5年間の成績をみても昨年を除いて決勝は全て5点差以上開いている。準決勝の試合をみても、今年は点差こそつまっているが、前半で、かなり開かれてしまっている。ここ数年の準決勝をみても点差の開くゲームが多い。女子は、そういう点で、ベスト4に残るチームであっても、まだ実力差にバラツキがあると見ても仕方のないことであろう。

勝負のおもしろさ、技術のすばらしさを十分に見せてくれたインカレではあったが、今後ますます学生ハンドボールが発展するためには、もっと遠い位置からシュートできるロングシューターの養成が必要であろう。そうすれば狭いところを割り込み、素人目にはわかりにくい状態で得点するより、エリアにへばりつくディフェンスにはロングシュートを放ち、ディフェンスがつめてくれば、エリア付近のゾーンを使ってポストプレーで得点するなど、素人目にもわかりよく、しかも効率の高いハンドボールが出来おもしろいハンドボールになると思う。

コンビネーションとディフェンス力の筑波大

関東大学春季リーグを7戦全勝で優勝しさい先よいスタートを切った筑波大も、東日本インカレ、秋のリーグ戦で低迷し、このままかと思われたが、筑波大学の特徴であるスピードあるコンビネーションと激しくピストンするディフェンスコンビネーションが復活し見事に優勝を手に入れた。2回戦の大阪体大、準決の慶応、決勝の日大戦どれをとっても薄氷を踏む思いの勝利であった。

キャプテン吉兼と攻撃ではセンタープレーヤー杉森とディフェンスでは原井らが中心となり、よくまとまっているチームである。朝生が攻撃専門プレーヤーとなり、田中がディフェンス専門プレーヤーとしてメンバーチェンジし、角ー武井らがロングシューターとして組織的な動きをしていた。

個々プレーヤーの頑張りがチーム戦術のなかでよくまとまりねばり強さを発揮した。全ての試合では調子の上がらないロングシューター武井が、ラッキーボーイの役を演じチームの暗を明に導いた。

攻撃専門プレーヤーの朝生もよくその役割を務め、迫力あるサイドからのシュートをゴールインさせた。また低身長のGK山崎（175cm）もディフェンスの健闘によくこたえて好守し、勝負どころのノーマークをよくさばいていた。筑波大学の平均身長は174・7センチであり大型化するハンドボール界にあって、低身長でもやれるということを実証してくれたことは有意義であった。

2位日大は4度目の決勝進出であるが、またしても王手をかけながら惜しいところで優勝をのがしてしまった。

決勝では、残す時間わずかなところで逆転し、そのまま優勝するかに見えたがノータイム寸前に決められ万事休した。コントロール

タワー田口を中心に、そのフェイント力とパスプレーを効率よく使い、1対1突破のうまい金原と他のポジションにシュート力あるプレーヤーを配した布陣は、パラレルにフォローする戦術をよく生かし、日大独特のチーム戦術を作り上げた。この2チームにつづく慶大、中央大も上位に一歩もひけを取らないチームであった。慶大は石塚、平林、山口を中心として、慶応独自の緻密さと迫力を作り出していた。これはともすればハンドボール経験の不足している慶大を支えるに十分足るものであった。

中央大学も秋季リーグ戦で優勝するなど本来の力を発揮するまでにチーム力は上昇していた。実方の力強い大砲、清家—大谷による絶妙なポストプレーは見ごたえのあるものであった。

この他目立ったところでは、西日本・秋リーグ優勝の同志社大学は、エースロングヒッター宮下を中心に、準々で延長で慶大に破れたものの、5位となり全日本総合の出場を決めた。

九州代表の福岡教育大学は、インカレ史上男子としては初めての九州地区ベスト8入りを果した。準々決勝で日本体育大学を破ってのものであるが日本体育大学は監督、コーチがオリンピックアジア予選で不在で不安定だったとは言え、よく勝利をものにした。これに対しここ2年間東海地区、男女ともベスト8から姿を消していることは、淋しい限りである。

力強さと勝負強さの女子優勝校日体大

昭和49年までの日体天下後は、東京女子体大や筑波大学の台頭があり、近年、優勝に恵まれることが少なかった。今回のインカレでは、力強さと勝負強さの日体の面目躍如たるものがあり、多少のもたつきはあったものの危げなく勝ち進んだ。リードオフマンの小口を中心に左腕のロングシューター山本と1対1に強い大野をフローターとして配し、池内、宮田、呉田のサイドポスト陣がよく動き、スキのない攻撃力を発揮している。ディフェンスは1対1を重視した守りでプレッシャーをかけ相手を追い込んでいた。接戦となる筑波大や大体大のゲームでは予想に反し前半で勝負を決めている。よく動き激しく守り速攻を決め点差を開いていった。今大会で特に目立ったのは大阪体育大の存在である。個々プレーヤーの個性と技術は、女子ハンドボール界に新しい風を送ったと言ってよい。それぞれのポジションに個性のあるプレーヤーを配し、しかもスケールが大きく技術的にみても、ワンハンドプレーを確実にこなしている。伝統的なプレーからもう一歩脱皮できない女子界にあって大阪体育大学としての個性を十分に確立していた。そういう面で破れたとは言え、今後に期待をいだかせるチームであった。

3位になった東京女子体育大学は順調にその力を伸ばしているが優勝を狙うには、決定力がまだ足りないようだ。4位に終った筑波大学は、もたついたままで終ってしまい本来の力から言えば優勝に最も近い位置であったが、その力が発揮されず残念であった。

レフェリングについて

最近のハンドボールをさばくには、非常に高度なレフェリングテクニックを必要とするようになった。レフェリーのゲームに対する考え、技術に対する考え、そして判定に対する規準を統一しないことには、不安定な状態にゲームが置かれることは避けられないだろう。今大会で目についたレフェリングについて書いてみたい。

◉GKの顔面シュートは退場

全日本学連でのみ採用しているルールであるが、危険の防止から望ましいルールであるといえる。日本人の顔というのは、能面のようにつるりとした表面に鼻骨がついており、目はボールが当れば直接的に衝激を受けるようになっている。西洋人は、T字形にとびでたおでこと鼻で目が保護されているので、ボールが当っても日本人ほど衝激を受けない。GKで目を負傷する人は多い。安全面だけでなくGKの顔にボールを当ててプレー続行というのは日本人の道徳感とも合わないようである。

◉フリースローか退場

一昔前はペナルティースローを宣するのが非常に重大なことと考えられ、そのケースであってもフリースローでおさえられるといったことがあったが、現在では、そういうことはなくなりペナルティーの規準もかなり一定してきた。ただ退場や失格になるケースになるとまだゲームの進行状態によってちゅうちょする面がみられ、故意の反則を助長していることがある。オリンピックアジア予選で、外国の審判が、速攻のチャンスに故意的な反則をしたプレーヤーに対してあっさりとレッドカードを出していたが、なるほどと思われるものであった。激しくても正当なプレーは伸ばしていかなければならないが、故意であったり、プレーヤーを危険にさらすプレーに対しては、あっさりと重罰を課し、パワフルでエキサイティングであるけれどもクリーンで見よいハンドボールをレフェリングで育てる必要があると思われた。

◉チャージかプッシングか

だいぶ、チャージの反則を見られるレフェリングが増え、ディフェンスの正当な技術が見きわめられるようになったが、時として、あいまいな判定があり、もう少し着実にチャージングの笛が吹けるようになれば、ディフェンスの技術も向上し、つかんだり押したりという反則は減少すると思われる。

◉ストーリングについて

今回、ストーリングの笛が目についた。それは、今までは攻めていさえすれば、それが有効であろうとなかろうとストーリングになることはなかった。今回は、攻めていても、ディフェンスが優位に立った場合は、ストーリングの判定が下されたためだと思われる。ハンドボールのディフェンスは、相手がシュートを打ったりミスをしない限りなかなかボールを奪えない特性を持っている。守ってもフリースロー、フリースローでつながれ結局はちょっとしたミスでシュートにつながれるということが多い。バスケットのように30秒ルールがあればよいのだが、それがない以上、ディフェンスが優位に立つ時間が長くなれば、所有権を移すというのは、ディフェンス力を評価することになり、またゲームのスピード化に貢献することになるだろう。これは審判員に高度なテクニックを要求することになるだろうが、ぜひとも発展させてほしいものだと思われた。

男子第26回・女子第19回 全日本学生選手権大会

筑波大（男子）初の栄冠に輝く

女子は日体大が12回目の優勝

男子26回、女子19回を数える全日本学生選手権大会は、11月16日から20日までの5日間、宮城県スポーツセンターを中心に開催された。優勝争いは関東各校が激しい戦いをくり広げたが、男子は筑波大が初の、また女子は日体大が2年ぶり12回目の栄冠に輝いた。

★男子

▽1回戦

早稲田大 27（15-12 / 12-8）20 東北学院大

得	【東北】		【早稲田】	得
0	佐藤	GK	西畑	0
0	原田	GK		
4	大場	FP	菊島	5
2	荒川悟	FP	岩佐	6
3	斉藤	FP	加藤	10
3	鈴木	FP	古平	1
5	小西	FP	谷藤	4
0	小野寺	FP	江口	0
0	藤原啓	FP	岡田	1
3	藤原賢	FP	小坂	0
0	荒川浩	FP	志村	0
0	今野	FP	平野	0
20	(4)	PT	(1)	27

（審・岡本、清水）

○…立ち上がり、東北学院が2対1とリードしたが、5分過ぎ谷藤のシュートで同点とした早大が、その後、5連続得点して一気に逆転、流れをつかみ加藤の打点の高いシュートなどで前半を12対8とリードして終了。後半、東北学院は早大が退場者を出している間に2点差まで詰め寄るが、早大のハードチェックに攻めあぐみ、再び引き離される。

天理大 37（21-10 / 16-9）19 信州大

得	【信州】		【天理】	得
0	片渕	GK	志村	0
0	西田	GK	島井	0
0	水野	FP	前出	10
4	小山	FP	玉川	5
4	柳沢	FP	浦	1
0	森泉	FP	小池	7
2	小笠原	FP	松本	1
1	相沢	FP	正田	1
3	平田	FP	亀野	1
4	伊藤	FP	杉森	7
1	岩崎	FP	中山	4
0	吉村	FP	高村	0
19	(0)	PT	(4)	37

（審・武田、林）

○…立ち上がり、シーソーゲームを展開したが、天理大・小池の連続ゴールにより天理大のペースにて進行。信州大はミスが目立ち単調な攻めで天理大に速攻を許し、前半終了真近反撃するも7点差にて前半を終る。後半、天理大のスピード豊かな速い攻撃で差は広がって行き、信州大の反撃もシュートミスが多く、天理大の一方的なゲームとなる。

筑波大 48（23-7 / 25-4）11 北海道大

得	【北海道】		【筑波】	得
0	小山	GK	野田	0
		GK	山崎	0
1	畠山	FP	吉兼	10
0	望月	FP	安藤	1
0	島田	FP	原井	8
6	森林	FP	朝生	6
2	木郷	FP	平野	0
1	山本	FP	角	7
0	土屋	FP	杉森	4
0	高橋	FP	田川	1
1	大堀	FP	武井	4
0	石橋	FP	田中	7
11	(2)	PT	(1)	48

（審・代永、小池）

○…北大森林を中心によく攻めるが、ポストで合わせる者がいなく単発なシュートになり、筑波大の速攻を誘発する。

筑波大のタイミングをずらしたシュートを北大GKが防ぎきれず、前半13分ペナルティーで1点を得るまで11－0と一方的なゲームになる。

筑波大・原井を中心にした走りと速いパスワークにほんろうされる。筑波大は前半残り10分より後半を通してメンバーを落とし、楽に勝利をおさめる。

中京大 30（14-7 / 16-9）16 東海大

得	【中京】		【東海】	得
0	柿木	GK	高橋	0
0	宇佐見	GK	石川	0
0	柘植	FP	福士	7
3	池辺	FP	菅田	3
4	今井	FP	渡辺	1
4	河原	FP	窪川	0
2	犬塚	FP	江守	0
3	渡辺	FP	中原	2
8	酒巻	FP	大屋	1
5	青木	FP	稲垣	1
1	桐木	FP	山本	0
0	谷口	FP	田村	1
30	(5)	PT	(1)	16

（審・五島、会田）

○…前半、中京大は東海大のミスから確実に点をあげていった。セットからは河原、酒巻のロングと今井のサイドからのシュートによる得点。一方、東海大はミスが多いながらも菅田のロングからのシュートにより得点をあげ、前半16対9と中京大リードで折り返した。後半に入っても、東海大はパスミスが続出し、ノーマークシュートもはずすなど中京大の有利なゲーム運びが見られた。中京大は後半からGK宇佐見の好守が光り、また速攻による今井、大塚の得点で東海大を引き離した。

中大 46（25-7 / 21-13）20 和歌山大

○…関西リーグ二部優勝の和歌山大が前半よく健闘したが、地力に勝る中大が、実方－清家らのロ

ングシュートで次第に引き離し、勝負を決めた。

【和大】	得		【中大】	得
宮崎	0	GK	木村	0
芝山	0	GK	宇田川	0
坂本	0	FP	実方	10
中川	7	FP	大谷	6
西野	1	FP	生駒	2
松岡	6	FP	安藤	2
宮原	4	FP	清家	10
福田	0	FP	小山	5
山本	1	FP	内間	4
浅田	1	FP	松田	2
真岡	0	FP	大木	5
照屋	0	FP	茂木	0
	20	(1) PT (2)		46

（審・青木・浜田）

福岡教育大 31（20−11、11−9）20 仙台大

【仙台】	得		【福岡】	得
斉藤	0	GK	鶴	0
山本	0	GK	柴田	0
望月	1	FP	柿並	1
高橋	0	FP	石塚	12
池上	6	FP	大庭	1
佐藤	0	FP	野口	6
井村	6	FP	池田	2
松本	0	FP	林	0
田中	2	FP	大瀧	0
橋川	1	FP	村田	4
渡辺	2	FP	板野	5
豊野	2	FP	上田	0
	20	(2) PT (2)		31

（審・菅野・半田）

○…初戦のため、両チームとも動きが悪く攻めも小さい。前半中盤までは互角の戦いだったが、速攻のある福岡が2点リードで前半を終る。

後半開始から福岡は動きがよく連続ゲットで大きくリード。全員がよく走り、得点力を持っているのに対し、仙台大は攻めも単調でノーマークシュートもGK鶴に巧守され逆速攻につなげられてしまうなどミスが多かった。

法政大 27（16−11、11−9）20 名城大

【名城】	得		【法政】	得
伊藤	0	GK	山田	0
吉見	0	GK	羽深	0
河村	5	FP	高良昇	1
桜田	6	FP	高良茂	5
神原	3	FP	今井	0
横山	5	FP	辻	3
波戸	0	FP	水之江	8
森田	0	FP	関根	1
広瀬	1	FP	佐伯	0
倉橋	0	FP	藤井	5
杉山	0	FP	田野倉	3
木下	0	FP	桜井	1
	20	(2) PT (6)		27

（審・新橋・南波）

○…前半、互角の攻防で両チームとも決め手を欠きボール回しの割には得点の少ない展開となった。名城の2：4のディフェンスに法政は攻めあぐんだが、名城の雑なディフェンスに助けられ2点リードで前半を終了した。後半になって名城は攻撃が単調になり、法政のディフェンスを崩せず点差が広がった。名城のラフなディフェンスが目立った。

京都産業大 28（16−9、12−8）17 愛媛大

【京都】	得		【愛媛】	得
成宮	0	GK	岸	0
福本	0	GK	武智	0
中田	2	FP	萬家	0
大原	6	FP	川田	7
辻本	7	FP	神原	1
内田	5	FP	園山	3
水谷	0	FP	森	2
中野	0	FP	小畑	2
富士	6	FP	滝野	0
大泉	2	FP	四宮	0
吉野	0	FP	田中	0
高木	0	FP	関谷	2
	28	(3) PT (3)		17

（審・関川・今野）

○…試合開始早々、京産大が4連続得点をあげ楽なゲーム展開になるかに見えたが、愛媛もリズムをつかみ始め追い上げに入るが、ポストのシュートミスがあり、どうしても加点することができず前半を終了する。後半もお互いよく頑張った試合であるが、なかでも京産大のGKの好守が光った。

▽2回戦

同志社大 31（6−5、12−13、13−12）30 早稲田大

【同志社】	得		【早稲田】	得
渡井	0	GK	西畑	0
花田	0	GK		
山田	1	FP	菊島	5
田嶋	1	FP	岩佐	4
宮下	10	FP	加藤	12
鈴木	1	FP	古平	1
奥畑	9	FP	谷藤	3
児玉	3	FP	江口	0
岩本	0	FP	岡田	5
三幸	5	FP	小坂	0
江南	0	FP	志村	0
酒井	0	FP	平野	0
	31	(4) PT (2)		30

（審・岡本・清水）

○…前半、同志社ペースで試合が展開されるが、早稲田も必死に追いかけ1点差で前半終了。後半に入り、両チームともに速攻を中心にシーソーゲームとなる。しかし、15分過ぎ同志社がよく走り4点差。早大もシュートまで持っていくが同志社GKの好守にあい得点できず苦しむが、残り5分同志社の宮木をマークし着々と差を縮め30秒前同点とし延長に入る。延長もすばらしいゲームで両チームの健闘をたたえたい。

慶應義塾大 24（12−7、12−9）16 天理大

【天理】	得		【慶応】	得
志方	0	GK	上原	0
島井	0	GK	青木	0
前出	3	FP	石塚	2
玉川	2	FP	小磯	0
浦	0	FP	余語	0
小池	3	FP	山口	11
松本	0	FP	津村	0
正田	0	FP	田中	0
亀野	1	FP	渡辺	1
杉森	5	FP	宮沢	0
中山	2	FP	平林	3
高村	0	FP	高岡	7
	16	(3) PT (0)		24

（審・菅野・半田）

○…前半両チームともセットプレー、速攻による得点で接戦となった。慶大は山口のサイドシュート、平林、高岡のロングシュートによる得点。一方、天理大は前出のダブルスカイ、中山のサイドシュートによる得点でに追い上げを見せ、12対9と慶大リードで前半を終了した。後半に入っても、慶大は高岡、キャプテン石塚らの得点により天理大を引き離した。一方、天理大も良いシュートをするがポストにあたるなど不運で得点に結びつかず、ノーマークシュートをはずすなどのミスも出た。結局24対16で慶大が勝利を納めた。

筑波大 22（12−11、10−9）20 大阪体大

○…10分過ぎまでお互いにGKの好守もあり得点が入らず、大体大・西村サイドからの廻り込みより先取得点、以後同点、逆転を再々くり返し筑波10対9で前半終了。後半、大体大・大塚のサイドシュートで同点とするが、筑波も朝生のループシュートで1点差とす

得	【筑波】		【大体大】	得
0	野田	GK	高橋	0
0	山崎	GK	小野	0
2	吉兼	FP	西村	8
0	安藤	FP	長野	1
0	原井	FP	佐々間	0
7	朝生	FP	杉山	0
3	角	FP	小間	3
1	杉森	FP	古賀	2
0	田川	FP	坂本	2
4	武井	FP	上原	0
0	田中	FP	大塚	4
0	八田	FP	山村	0
22	(0)	PT	(3)	20

（審・青木 浜田）

る。後半も1点差を争う試合運びで、16分過ぎより筑波4点差のまいくかに見えたが大体大・西村カットインから逆速攻でペナルティーを得、その後、3連続得点と頑張りを見せる。最後まで息をのむゲームであったが、筑波・武井のサイドシュートが2点差駄目押しとなり終了。お互いにディフェンスのラフプレーが目立ったが、シーソーゲームには見るものがあった。

国士館大 29（14―14, 15―13）27 中京大

得	【国士館】		【中京】	得
0	渡辺	GK	柿木	0
0	大崎	GK	宇佐見	0
9	池田	FP	拓植	0
2	青柳	FP	池辺	2
1	新垣	FP	今井	1
0	金丸	FP	河原	6
7	田村	FP	犬塚	6
3	内藤	FP	渡辺	1
0	有松	FP	酒巻	5
0	吉田	FP	青木	6
2	鈴木	FP	桐木	0
5	綿引	FP	谷口	0
29	(6)	PT	(6)	27

（審・武田 林）

○…前半立ち上がり、攻撃にリズムがなく防御の甘い国士館に対し、中京は良く走り、リズムも良くサイド、ミドルが決まりリードしたが、中盤から国士館のGKの好守から速攻が決まり同点で前半を終了した。後半、サイド、ポスト、速攻で得点を重ねた国士館に対し、ロング、速攻で得点した中京であったが、わずかに国士館の得点がまさり2点差で勝利をものにした。

中央大 30（14―12, 16―13）25 中部工業大

得	【中央】		【中工】	得
0	木村	GK	新垣	0
0	宇田川	GK	玉城	0
13	実方	FP	宇栄原	2
1	大谷	FP	下地	0
0	生駒	FP	川満	0
1	安藤	FP	山村	0
7	清家	FP	馬場	3
3	小山	FP	小幡	0
3	内間	FP	高市	8
0	松田	FP	宮城	6
2	大木	FP	荷川取	2
0	茂木	FP	河原	4
30	(4)	PT	(2)	25

（審・小友 谷藤）

○…予想どおりの接戦となった。試合は前半から一進一退の好ゲームとなり中大の2点リードで前半を終えた。しかし、後半になると中大はエース実方のミドルが決まりだし一歩リード。中部工大もダブルポストからのミドルで食い下がり後半16分には1点差まで追い上げたが、結局は5点差で中大が逃げ切った。きびきびしたスピードのある好ゲームであった。

福岡教育大 28（15―12, 13―14）26 日本体育大

得	【日体】		【福岡】	得
0	北川	GK	鶴	0
0	板野	GK	柴田	0
10	田中	FP	柿並	7
5	鈴木	FP	石塚	5
2	小川	FP	大庭	3
0	牧島	FP	野口	4
4	岡部	FP	池田	0
4	鶴田	FP	林	0
1	河本	FP	建岡	0
0	今井	FP	村田	6
0	境	FP	板野	3
0	財満	FP	松井	0
26	(1)	PT	(1)	28

（審・岡本 清水）

○…前半福教大は、日体大の単発な攻撃やパスミスからの速攻で確実に得点をあげた。しかし大切な所でノーマークシュートをはずした。一方、日体大はキャプテン田中がポストでのシュートを確実に決め前半は15対12福教大リードで終了した。後半に入り、日体大のミスにより一時は5点差と福教大がリードしたが、残り10分で日体大が追いついた。結局ミスの多かった日体大が攻め切れず28対26で福教大が勝利を納めた。

法政大 29（14―10, 15―17）27 大阪大

得	【大阪】		【法政】	得
0	野口	GK	山田	0
0	足立	GK	羽深	0
3	相良	FP	高良昇	7
0	山崎	FP	高良茂	6
4	田坂	FP	今井	0
0	森山	FP	辻	0
5	水谷	FP	木村	1
6	鈴木	FP	水之江	5
0	武田	FP	佐伯	0
1	新野	FP	藤井	6
1	森田	FP	田野倉	4
7	川本	FP	桜井	0
27	(2)	PT	(5)	24

（審・青木 浜田）

○…立ち上がり、大阪大にシュートミスがあり法政が優位に試合を進めたが、20分頃から得点の取り合いとなりロングを持つ法政が前半リードした。後半、多彩な攻撃で攻める法政に大阪大はディフェンスに甘さがあり得点を許した。しかし法政もディフェンスが甘く点の取り合いとなり結局法政が逃げ切った。

日本大 31（13―12, 18―9）21 京都産業大

得	【京都】		【日大】	得
0	成宮	GK	森田	0
0	福本	GK	宮田	0
6	中田	FP	田口	8
5	大原	FP	田崎	1
5	辻本	FP	河村	4
0	内田	FP	内藤	10
0	水谷	FP	小林	0
5	中野	FP	加藤	5
0	富上	FP	金原	3
0	大泉	FP	武田	0
0	吉野	FP	鵜川	0
0	高木	FP	岡	0
21	(2)	PT	(3)	31

（審・半田 菅野）

○…試合開始早々京産大が3対1で先行し日大がこれを追いかける形で進み、流れは京産大ペースになった。早いパスタイミングから辻本のミドルで攻める京産大に対し、内藤のロング、田口の巧技でせまる日大、1点を争う接戦となった。後半10分過ぎから日大はやっとリズムに乗り、得意のコンビネーションプレーを発揮しはじめ、15分には4点差をつけそのまま押し切った。京産大のスピーディなゲーム展開が印象に残る試合であった。

▽3回戦

慶應義塾大 21（11－10、10－8）18 同志社大

	【同志社】	得	【慶応】	得
PK	渡井	0	上原	0
PK	花田	0	青木	0
FG	山田	2	石塚	4
FG	田嶋	4	小磯	0
FG	宮下	7	余語	0
FG	鈴木	0	山口	2
FG	奥畑	3	津村	1
FG	児玉	0	田中	0
FG	岩本	0	渡辺	1
FG	三幸	2	平林	5
FG	江南	0	高岡	3
FG	酒井	0	今井	5
PT	18	(5)	21	(1)

（審・岡本、清水）

○…同志社・奥畑のペナルティで先得するも慶応も山口のシュートで応戦。その後、同志社・宮下、三幸のシュートで加点するのに対し、慶応もパスカットからの速攻で加点し、一時同志社にリードを許したものの高岡、平林の3連続パスカットからの速攻で同点、今井のポストで逆転し前半を終了。後半に入っても、シーソーゲームとなり白熱した展開となるが、残り7分同志社ペナルティを落とすあたりから慶応ペースとなり、同志社・宮下の再三のロングシュートもとどかず慶応の勝利となった。

筑波大 23（12－6、11－8）14 国士舘大

	【筑波】	得	【国士館】	得
GK	野田	0	渡辺	0
GK	山崎	0	大崎	0
FP	吉兼	6	池田	4
FP	安藤	0	青柳	0
FP	原井	5	新垣	0
FP	朝生	4	金丸	1
FP	角	5	田村	1
FP	杉森	1	内藤	5
FP	田川	0	有松	0
FP	武井	1	吉田	0
FP	田中	1	鈴木	0
FP	八田	0	綿引	3
PT	23	(2)	14	(1)

（審・菅野、半田）

○…お互いに手の内を知り尽しているだけに前半立ち上がりは攻めずらそうだった。中盤より速攻で連続ゲット、セットプレーでは出来過ぎ気味の国士舘大ディフェンスをうまくフェイントでかわし確実に得点に結びつけ12対6と筑波のリードで前半を終る。後半も国士舘の攻めに変化がなく、ボールカットを狙われ速攻につなぎ、楽なペースで筑波が振り切った。筑波GK山崎の好守が光った。

中央大 30（15－10、15－7）17 福岡教育大

	【中大】	得	【福岡】	得
GK	木村	0	鷲	0
GK	宇田川	0	柴田	0
FP	実方	13	柿並	4
FP	大谷	6	石塚	5
FP	生駒	0	大庭	0
FP	安藤	2	野口	1
FP	清家	6	池田	1
FP	小山	2	林進	0
FP	内間	0	建岡	0
FP	松田	0	村田	1
FP	大木	1	板野	5
FP	茂木	0	松井	0
PT	30	(8)	17	(1)

（審・岡本、清水）

○…前半立ち上がり、中央大のディフェンスの甘さから福岡は石塚、板野のミドルシュート、柿並の速攻による得点。一方、中央は実方のロング、大谷のポストからの得点。前半中央大のミスが目立ったが15対10と折り返した。後半に入り、中央大実方の連続5ポイントを含む幅広いプレーで開始10分に8点差となり試合の行方は7割方決まってしまった。以後両チームともミスは出たが得点力の勝る中央大が30対17で勝利を納めた。

日本大 24（16－9、8－9）18 法政大

	【法政】	得	【日大】	得
GK	山田	0	森田	1
GK	羽深	0	宮田	0
FP	高良昇	2	田口	1
FP	高良茂	4	田崎	5
FP	今井	0	河村	0
FP	辻	0	内藤	1
FP	木村	1	加藤	0
FP	水之江	6	金原	10
FP	関根	0	武田	5
FP	藤井	4	嶋川	0
FP	田野倉	1	浜田	0
FP	桜井	0	岡	1
PT	18	(2)	24	(0)

（審・菅野、半田）

○…前半、ディフェンスの良い日大が良く守り、攻めでも金原のカットインからの得点が光った。また田口の絶妙なパスをポスト田崎が得点するなどのコンビも見られた。一方、法政も良い攻めをするがGKの好守に阻まれ、20分過ぎぐらいから、水之江、藤井のロングが決まり始めたが前半は16対9日大リードで終了。後半は、両チームとも得点の取り合いとなり前半の得点差がそのまま最後まで響き、24対18で日大が勝ちを納め準決勝戦へ進んだ。

▽準決勝

筑波大 18（6－5、7－8、1－1、4－2）16 慶應義塾大

	【慶応】	得	【筑波】	得
GK	上原	0	野田	0
GK	青木	0	山崎	0
FP	石塚	2	吉兼	2
FP	小磯	0	安藤	0
FP	余語	0	原井	4
FP	山口	2	朝生	6
FP	津村	2	角	3
FP	田中	0	杉森	1
FP	渡辺	1	田川	0
FP	平林	6	武井	2
FP	高岡	2	田中	0
FP	今井	1	八田	0
PT	16	(2)	18	(2)

（審・半田、菅野）

○…立ち上がり、筑波大は朝生のサイドからの得点で先取したが、慶大も平林のロングなどで逆転、しかし、筑波は角が得点を決め6対5と少差で前半を終了した。後半に入っても、両チームとも点の取り合いになり、残り5分筑波が3点リードしたが、慶応は残り1分で同点とし延長戦になった。延長に入ると慶応・平林、高岡が続けて退場し、この間に筑波・武井が得点し結局18対16で勝ち決勝戦へ進んだ。

日本大 28（9－10、15－14、1－2、3－0）26 中央大

○…中大・大谷の右サイドからのうかしで先行するが、すぐに日大が同点とし両チームともに白熱した試合となり前半10対9と中大

得	【中央】		【日大】	得
0	木村	GK	森田	0
0	宇田川	GK	宮田	0
7	実方	FP（審・岡本 清水）	田口	4
6	大谷		田崎	1
0	生駒		河村	4
2	安藤		内藤	6
0	清家		加藤	0
3	小山		金原	8
0	内間		武田	5
0	松田		嶋川	0
3	大木		浜田	0
0	茂木		岡	0
26	(3)	PT	(4)	28

1点差で終了した。後半に入っても、前半同様1点を争う好試合となり、29分日大・河村がポストシュートを決め逃げ切るかに思えたが、中大も右45度からのカットインでペナルティを得、実方これを決めて延長戦となった。延長戦に入った前半、中大ポストと速攻ペで2対1としたが、後半開始早々ナルティを得た日大が同点とし、その後、田崎のポストと内藤のサイドシュートを決め2点差で逃げ切った。

▽3位決定戦

慶応義塾大 21（10－8, 11－9）17 中央大

得	【慶応】		【中央】	得
0	上原	GK	木村	0
0	青木	GK	宇田川	0
0	石塚	FP（審・小友 谷藤）	実方	6
0	小磯		大谷	4
0	余語		生駒	0
4	山口		安藤	1
3	津村		清家	3
0	田中		小山	1
0	渡辺		内間	0
8	平林		松田	0
3	高岡		大木	2
3	今井		茂木	0
21	(3)	PT	(3)	17

○…慶応大出足よく平林のロング、高岡の速攻等で3対0とリードするも、11対9で前半終了。後半開始早々中大・実方の働きで同点に追いつくも、20分実方負傷の間に慶応・平林たて続けに4点を決め試合を決定する。

▽決勝

筑波大 16（6－7, 10－8）15 日本大

○…前半立ち上がり、筑波大は朝生のサイドシュートなどで得点、15分過ぎぐらいで武井のロングも決まりだした。一方、日大は筑波大のディフェンスの甘さから金原のPTで得点、武田、内藤らのロング、カットインなどで点を重ねた。後半に入っても両チームとも1点が貴重となるゲーム運びとなった。日大は金原の切れのよいカットインからの得点、筑波は朝生のスカイプレーなどで得点をあげた。日大は残り1分で同点としたが、筑波大の武井が残り10秒で決勝点をあげ優勝を決めた。

得	【日大】		【筑波】	得
0	森田	GK	野田	0
0	宮田	GK	山崎	0
1	田口	FP（審・半田 菅野）	吉兼	1
0	田崎		安藤	0
1	河村		原井	3
3	内藤		朝生	6
0	加藤		角	2
7	金原		杉森	1
3	武田		田川	0
0	嶋川		武井	3
0	浜田		田中	0
0	岡		八田	0
15	(4)	PT	(0)	16

★女子

▽1回戦

筑波大 31（19－3, 12－5）8 岩手大

得	【岩手】		【筑波】	得
0	菊池文	GK	久保	0
0	工藤	GK	樽谷	0
3	川村	FP（審・今野 関川）	山口	1
1	藤原		河原	8
0	種市		鈴木	4
2	千葉		山田	3
2	田口		池田	3
0	菊池昌		高柳	1
0	大森		伊賀	0
			中田	3
			市川	8
			芥川	0
8	(2)	PT	(2)	31

○…筑波は開始早々よりなかなか調子に乗れず、ディフェンスの甘さからパスのつなぎが遅く、再々あった波に乗るチャンスを無駄にして前半を終了。後半に入り筑波・河原をトップに1—5のディフェンスで岩手のパスコースをつぶし、速攻、ロング、ポスト、サイドと多彩な攻撃で点差を開き、筑波らしいゲームで終る。岩手の川村の小さな体での健闘を讃えたい。

千葉明徳大 22（13－10, 9－11）21 中京大

○…前半、出足好調の千葉明徳がリードを奪ったが、中京の大型選手の少々荒い守りに得点が止まり、たちまち逆転されて11対9と中京のリードで前半終了。後半になると細かく動く千葉明徳が、笹津、石塚の得点で同点とし、以後最後までシーソーゲームが続いたがタイムアップ直前、千葉明徳がペナルティスローを得て決勝点をあげ勝利をものにした。

得	【中京】		【明徳】	得
0	三戸	GK	井元	0
0	板谷	GK	石岡	0
5	牧野	FP（審・五島 会田）	進藤	3
5	富田		笹津	9
2	椎村		石塚	3
5	浅野		田所	3
1	杉野		海老根	0
3	田中		小野	0
0	古河		天野	0
0	山田		上野	2
0	帰山		高山	2
			山岸	0
21	(2)	PT	(5)	22

日体大 33（14－5, 19－3）8 福岡大

得	【福岡】		【日体】	得
0	赤木	GK	小野	0
0	田川	GK	広瀬	0
1	尾木	FP（審・新橋 南波）	池内	3
1	栗林		呉田	3
1	佐野		石原	0
1	山田		宮田	4
2	増田		山本	0
1	長野		李	3
1	延岡		上嶋	4
0	宮川		小口	7
0	沢辺		吉岡	0
0	本多		大野	9
8	(2)	PT	(4)	33

○…前半開始30秒、日体大・小口のロングシュートで先制、その後カット、パスミスからの速攻で着々と得点を重ねる。一方、福岡大の一生懸命攻めるも決め手がなく、18分ようやく長野のサイドからのシュートが入る。後半も前半と同様の展開となり大差がつくが福岡大も最後まで頑張る。

武庫川女子大 22（11－4, 11－1）5 茨城大

得	【茨城】		【武庫川】	得
0	平沢	GK	三宅	0
		GK	岡本	0
3	金平	FP（審・勝山 加藤）	神並弘	5
0	谷萩		久保	2
0	市川		岡山	1
0	横田		茂山	5
0	武藤		林	3
0	海老原		仲	2
0	竹田		池渕	1
2	永富		大橋	1
0	山田		神並知	0
0	嶋崎		西田	2
5	(1)	PT	(2)	22

○…スピードに勝る武庫川の一方的な試合で終った。武庫川は全員が走りまくり、速い攻撃で得点をあげた。一方茨城大にとっては苦しい試合となったがよく頑張り少ないチャンスをものにし得点をあげた。

東京女子体育大 36（17－7, 19－4）11 中京女子大

得	【中京】		【東女】	得
0	浅井	GK	中川	0
0	入鹿	GK	大坪	0
7	大久保	FP（審・五島 会田）	内山	1
1	野村		妹川	4
1	山田		酒井	1
0	吉田		宮脇	2
0	杉野		小池	15
0	池田		佐藤	2
2	前田		篠原	4
0	波多野		田島	3
0	杉浦		大畑	3
0	尾崎		加賀谷	1
11	(3)	PT	(12)	36

○…総合力に勝る東女体大の一方的ゲーム運びで前半終る。後半中京女大も全員が良くがんばるが

東女体大の固い守りを破れず大差がついて終る。

福岡教育大 21（9－6, 12－9）15 大阪教育大

得	【大阪】		【福岡】	得
0	鬼村	GK	白石	0
0	橋本	GK		
4	芝崎	FP	額田	15
5	丸山		富田	0
0	村田		大塚	0
0	西川		柴田	3
3	塩見		千々和	1
0	田中	（審・新橋・南波）	田口	2
1	大植		橋本	0
0	生長			
0	小倉			
2	中島			
15	(2)	PT	(4)	21

○…前半より白熱した好ゲームを展開したが、中盤から福岡のミドルシュートが決まりだしペースを握る。後半も福岡は足が良く動き点差を広げた。両チームともきびきびした好ゲームであった。

日本女子体育大 26（12－2, 14－5）7 山口大

得	【山口】		【日女】	得
0	肥田	GK	佐藤	0
		GK	田中	0
0	阿達	FP	金井	4
3	藤木		大館	2
4	岡崎		川村	2
0	戸田		塚田	0
0	吉賀		土屋	7
0	福永	（審・代永・小池）	矢沢	2
			安藤	1
			浜野	1
			北井	3
			常木	4
7	(1)	PT	(1)	26

○…本大会参加校中最少人数で出場の山口大、ゆっくりしたボール回しで健闘するも、日女体大の金井を中心とした速い攻撃と堅いディフェンスに如何ともしがたし。最後までがんばった山口大に拍手を送りたい。

大阪体育大 32（17－5, 15－10）15 東京学芸大

得	【大体】		【学芸】	得
0	吉田	GK	狩野	0
0	野村	GK		
4	伊勢	FP	片岡	10
0	大里		藤原	0
0	小川		宮崎	0
2	筒井		和田	0
0	望月		森	0
11	池上	（審・勝山・加藤）	小池	2
4	森山		一柳	0
3	橋本		岡野	2
8	藤田		後藤	0
0	渡辺		石崎	1
32	(4)	PT	(1)	15

○…前半開始から10分位までは大阪体大に固さがあり互角の戦いだったが徐々に力を出し差がついた。東京学芸大は片岡の健闘も素晴らしいが他のプレーがうまくかみあわず一人の活躍が光る。後半も大阪体大の動きのあるプレーが続き小柄な東京学芸大では守り切れず大差で勝敗を決す。大阪体大の動きのあるプレーは素晴らしい

▽2回戦

筑波大 25（13－7, 12－8）15 千葉明徳短期大

得	【筑波】		【千葉】	得
0	久保	GK	井元	0
0	樽谷	GK	石岡	0
1	山口	FP	進藤	0
5	河原		笹津	5
5	鈴木		石塚	2
0	山田		田所	3
0	高柳		海老根	0
2	伊賀	（審・勝山・加藤）	中島	0
5	中田		天野	1
3	市川		上野	2
4	芥川		高山	0
0	吉永		山岸	2
25	(5)	PT	(4)	15

○…筑波・市川のロングシュートで先行、その後、明徳・上野ミドルシュートで同点、20分過ぎまで一進一退が続き筑波がペナルティを落とし、このまま前半を終了するかに見えたが、地力に勝る筑波の芥川、河原の速攻で連取し前半を終了した。後半に入っても、攻め手を欠く明徳から得点を重ねる筑波に対し善戦するも力及ばず。

日本体育大 29（14－9, 15－12）21 武庫川女子大

得	【日体】		【武庫川】	得
0	小野	GK	三宅	0
0	広瀬	GK	岡本	0
4	池内	FP	神並弘	4
2	呉田		久保	4
0	石原		岡山	2
1	宮田		茂山	4
8	山本		林	0
0	李	（審・青木・浜田）	仲	4
0	上嶋		池渕	2
3	小口		大橋	1
0	吉岡		神並知	0
11	大野		西田	0
29	(9)	PT	(0)	21

○…立ち上がり、日体大サウスポー山本がセンターからジャンプシュート。2点目は呉田右サイドからたおれこみを決め日体大ペースですべり出す、武庫川も神並弘を中心に頑張りを見せるが、ディフェンスのファールでペナルティ5本を与え自滅気味。また、20分過ぎより得点出来ず、前半日体大14対9のリードで終了。後半に入っても、流れは日体大。

武庫川・仲らの速攻で健闘するが、日体大1年大野の活躍もあり勝ち上がる。

東京女子体育大 22（11－7, 11－5）12 福岡教育大

得	【福岡】		【東女】	得
0	白石	GK	中川	0
		GK	大坪	0
9	額田	FP	内山	0
1	富田		妹川	4
0	大塚		喜田	0
2	柴田		宮脇	4
0	千々和		小池	9
0	田口	（審・小友・谷藤）	佐藤	0
0	橋本		篠原	2
			田島	1
			二村	0
			大畑	2
12	(3)	PT	(3)	22

○…東女体大が速攻、ロング、サイドと着々と得点するが、固いディフェンスに福岡の攻めも額田1人と後続がなく東女体大の壁を破れないまま前半を終了。後半も総合力に勝る東女体大ペースで進むが時折見せるカットインからペナルティをもらい一時16対10まで追い上げるが、東女体大・小池のパスカットなどの速攻で加点し終始東女体大ペースの試合であった。

大阪体育大 33（18－5, 15－10）15 日本女子体育大

得	【日女】		【大体】	得
0	佐藤	GK	吉田	0
0	田中	GK	野村	0
7	金井	FP	伊勢	9
0	大館		大里	0
1	川村		小川	0
0	塚田		筒井	4
2	土屋		望月	1
0	矢沢	（審・新橋・南波）	池上	8
3	安藤		森山	6
1	浜野		橋本	0
0	北井		藤田	5
1	常井		渡辺	0
15	(3)	PT	(4)	33

○…日女体大・安藤の先取点で

スタートするが、大体大・池上のシュートで返されたあとは一方的な展開となった。日女体大も時々サイドシュートやカットインからペナルティを誘うが、前半大体大18対5と大差で終了。後半は、10分過ぎまで日女体大のペースで試合が運び、また、15分過ぎには大体大2名の退場者があり、反撃のチャンスに見えたが、地力の差は縮めることは出来なかった。

▽準決勝

日本体育大 20（13－5, 7－12）17 筑波大

得	【日体】		【筑波】	得
0	小野	GK	久保	0
0	広瀬	GK	樽谷	0
2	池内	FP	山口	1
1	呉田	FP	河原	6
0	石原	FP	鈴木	2
1	宮田	FP	山田	0
2	山本	FP	伊賀	1
0	李	FP	高木	1
0	上嶋	FP	中田	3
5	小口	FP	市川	3
3	吉岡	FP	芥川	0
6	大野	FP	吉永	0
20	(2)	PT	(2)	17

（審・小友、谷藤）

○…前半立ち上がり、筑波のシュートミスなどから日体大は、速攻で得点をあげ一時は6点差まで開いたが、筑波も日体大・吉岡の退場の間にもり上げた。

しかし、筑波・鈴木の痛い退場で、日体大の速攻などを決められ、13対5と日体大大量リードで前半を終了した。

後半に入り、日体大が攻めあぐみ、逆に筑波は河原のスカイプレーを含むサイドシュートで残り10分で2点差まで追い上げた。しかし、その後両チームとも点が入らず残り2分で日体大池内が3点差とするループシュートを入れ試合を決めた。

大阪体育大 18（11－5, 7－12）17 東京女子体育大

得	【大阪】		【東京】	得
0	吉田	GK	中川	0
0	野村	GK	大坪	0
6	伊勢	FP	内山	3
0	大里	FP	妹川	3
0	小川	FP	喜田	0
0	筒井	FP	宮脇	1
0	望月	FP	小池	8
7	池上	FP	佐藤	0
1	森山	FP	篠原	1
0	橋本	FP	田島	1
4	藤田	FP	二村	0
0	渡辺	FP	大畑	0
18	(3)	PT	(5)	17

（審・新橋、南波）

○…大体大の固いディフェンスとキーパーの好守にはばまれなかなか得点出来ない東女体大に対し、大体大は藤田のジャンプシュートを軸に着々と得点を重ね、前半11対5とリードのうちに終了。

しかし、東女も後半に入り立ち上がり、4連続得点と追い上げ緊迫したゲーム展開。

東女・小池を中心に追い上げるが、一方、大体大もキャプテン伊勢を中心にまとまり東女の反撃をかわし逃げ切った。

▽3位決定戦

東京女子体育大 16（7－8, 9－3）11 筑波大

○…前半立ち上がり、東女体大は、小池、宮脇らの得点で筑波大を5対1まで引き離した。しかし20分過ぎから東女体大にミスが出始め、筑波大は確実に点を取り、残り5分で8対7と逆転し前半を終了した。後半に入ってから両チームとも決め手がなく、1点が非常に大切になってきた。残り10分で抜け出したのが東女体大である。東女体大は、筑波大・山口、鈴木と続けて退場した間に確実に点を取り引き離した。結局、この退場の間の点差が最後まで縮まらず16対11で東女体大が勝ち3位に決定した。

得	【筑波】		【東女】	得
0	久保	GK	中山	0
0	樽谷	GK	大坪	0
2	山口	FP	内山	3
3	河原	FP	妹川	1
4	鈴木	FP	喜田	0
0	山田	FP	酒井	0
0	高柳	FP	宮脇	2
0	伊賀	FP	小池	5
2	中田	FP	佐藤	0
0	市川	FP	篠原	1
0	芥川	FP	田島	1
0	吉永	FP	大畑	3
11	(2)	PT	(5)	16

（審・新橋、南波）

▽決勝

日本体育大 34（23－12, 11－15）27 大阪体育大

得	【大阪】		【日体】	得
0	吉田	GK	小野	0
0	田中	GK	広瀬	0
5	伊勢	FP	池内	6
0	大里	FP	呉田	2
0	小川	FP	石原	0
1	筒井	FP	宮田	6
0	望月	FP	山本	7
6	池上	FP	李	0
0	松本	FP	上嶋	0
6	森山	FP	小口	6
1	橋本	FP	吉岡	0
8	藤田	FP	大野	7
27	(2)	PT	(1)	34

（審・岡本、清水）

○…打倒関東を目指す大体大のスローオフで始まったが、チーム速攻を武器としている日体大は、パスミスから逆速攻、吉岡が決め先行する。一方、大体大も長身森山がジャンプシュートを決め応襲、10分過ぎまで互いに点を取り合う。9分に日体大・宮田が逆速攻で引き離し、12分過ぎから日体大5連続得点。日体大の厚いディフェンスの前に大体大なかなか攻め切れず11点差で前半を終了。大体大も後半森山、池上が頑張り一時じりじりと6点差までつめるが、前半の失点が最後まで響き栄光の座は日体大に輝いた。



連載——第1回

IHFシンポジューム報告

○攻撃側・防御側の反則行為
○消極的試合・試合遅延行為

光島 磯雄

1983年5月19日〜23日まで西ドイツでレフェリーとトレーナーの合同シンポジュームが開催され、日本からトレーナー部門で、緒方嗣雄氏が、レフェリー部門から私、光島が出席した。

シンポジュームでは『クリーンなハンドボール』を目指しIHFの技術委員、規則審判委員の講演やディスカッションが行なわれた。

以下数号にわたってその報告をする。

『ルール「第八条」の解説』

IHF／PRC（規則審判委）ヴェルナー・フィック（西ドイツ）

攻撃側プレイヤーによる反則行為の様態

Ⅰ フリースローライン外側又はその付近によるプレイヤーによるもの。

1 防御側プレイヤーに対して走って突きあたる。

2 ジャンプしてパスのあと又はシュートするとき防御プレイヤーにぶつかる。

3 シュートをする腕又は手が相手の肩の上にふりおろされたり叩いたり押したりすること。

4 ジャンプしたとき前や横に出された膝や足で相手を危険な目にあわせる。

5 シュートしたあと相手プレイヤーを腕又は手で邪魔をする。

6 前に出した腕、肩、又は肘で相手を押しのける突きとばす。

7 ボールを持っての危険なフェイントモーション。

8 防御プレイヤーの前でバックシュートを行なう。

Ⅱ ゴールエリア付近のプレイヤーによるもの

1 反則状態のブロックプレー（スクリーンプレー）

2 防御プレイヤーに突きあたって（尻、腰などで）はねとばすプレー。

3 防御プレイヤーを突きとばす

4 防御プレイヤーを押す、つかむなどして向きを変えさせる。

5 相手をつまづかせるなどして転倒させる。

6 防御プレイヤーに向って頭を突き出して突っこむ。

7 防御プレイヤーをつかむ。

8 特に倒れ込みシュートのときに腕で締めつける。

9 相手の進路に足を伸ばして出す。

10 シュートのあとゴールキーパーに向ってころがって行く。

11 防御プレーをマークするためゴールエリアを通って行く。

防御側プレイヤーによる反則行為の様態

Ⅰ フリースローライン外側又はその付近にいるプレイヤーに対するもの

1 腕又は脚によるスクリーンプレー。

2 人間の身長より低いシュートに対して足や下腿で防ぐこと。

3 相手の持っているボールを握りこぶしで叩くこと。

4 腕で突きとばす。

5 相手のジャンプに対抗して、ジャンプしてとびかかる。

6 相手の進路に足を伸ばして出す。

7 腕で相手をつかむ。

8 空間にある相手プレイヤーを突きとばしたり下に引き倒す。

9 腕で抱きつく。

10 握りこぶしや手のかどで相手の手、その他を叩く。

11 相手の首や顔面に向って手を突き出す。

12 相手を肩で押すか突くかしてよろめかせる。

13 ジャンプしている相手を下から突きあげる。

Ⅱ ゴール付近にいるプレイヤーに対するもの

1 腕又は下腿でスクリーンプレーをする。

2 両腕、両手でつかまえる。

3 相手を両手又は身体全体で押しのける。

4 相手がボールをキャッチする前にボールから遠ざけるため押しのかす。

5 相手がボールをキャッチするときその手を叩く。

6 エリア前を走るプレイヤーに対して肩を突きあてる。

7 何らかの利益を得るためにゴールエリア内に入る。

8 スクリーンをした位置、状態から相手を突きとばす。

9 パスをするとき又はパスを受けるときに突きとばす。

10 シューターの上におおいかぶさって倒す。

11 腕で抱きつく。

12 ユニホームをつかむ。

13 シュートのとき相手の身体や肘を突く。

14 首に腕をまきつかせる。

15 相手の足をふみつける。

16 相手をつねる。

17 シューターに対してとびかかる。

18 相手を尻や腰のひねりではねとばす。

19 ボールをキャッチしようとしている腕をひきずりおろす。

20 肘やこぶしを相手の腹部へ突っ込む。

21 ゴールエリア内へ入り込む。

『消極的試合と試合遅延行為について』

ヤーニス・グリンベルガス（ソ連）

つい先頃まで消極的試合又は、試合遅延行為というものは多種多様の枝わかれしたようなものと考えられていて、その中のあるものは明らかにハンドボールを毒するものと認められる。このような試合をみたとき、人はハンドボールとは何と未開で粗野なスポーツなのかと言うであろう。

我々は今ハンガリーでの女子世界選手権大会のことを思い出す。その多くはコートで純粋にボールを対象として奮闘していた女性プレイヤーの姿である。そしてこの方法でプレーに終始したのは、ほとんどがゲストチームによってであった。彼女らが攻めているときそれが、相手によって阻止されたときあるプレイヤーはそれを大げさにみせて強調するため床にたおれた。これは防御がいかにも粗暴であり、それによってレフェリーから同情の念を呼びおこそうとしているかにみえるのである。プレイヤーの防御活動中、彼らはことさらにこのように床にたおれてみせるという手段を武器として積極的に行使し、何らかの有利な判定がもたらされることを期待する。このような人目をわざとひくように前もって企画せられたショウ的プレーは警告によってはじまる段階的罰則適用の対象とされるべきである。ここで私はこの罰則適用の区切りを明確にするためいくつかの例を引用することにしたい。

世界選手権大会で韓国チームがボールをとるや否やただちに俊速に相手陣内に入ったが、その後速攻は成功しないと考えたためか、それからゆっくりと自己の攻撃をいろいろなコンビネーションによって組立てはじめた。このような試合の様相（攻撃準備状態）は相手のゴールに何らかの危険もおよぼさないものである。またこれとは別に同チームにより、やっとのことでボールを自チームのものとした後ゆっくりと相手コートに入ってから緩慢にセットプレーを開始したのである。その後ゴールを狙うため相手のすきを見付けようとしているうちに通常よりも多い回数におよぶホールディングなどが発生し、それがフリースローになってしまったのである。

第1の例と同じく第2の例はヨーロッパカップゲームにおいて多くみられるが、これはゲストチームは出来る限り長時間にわたってボールを自己のチームのものとしておこうと努力するからである。

我々がこの変型ともいえるプレーに言及するとき必ず質問が出る。何が正しくて、何が許されるのか？と。この件について我々はスーパーカップス大会の出場チームであるSKAミンスク（ソ連）とグンメルスバッハ（西ドイツ）にその例を見出す。

ボールを得るや否や、グンメルスバッハチームは速攻で相手コートに入った。しかしこの攻撃は成功せず同チームは防御専門でいつも交代することになっているプレイヤーがコートを出てその代りにエアハルト・ヴンダリッヒに入ってくるのを待つのである。そしたこの後新しい攻撃に着手することになるのである。ミンクスチームの側にも似たようなことがみられる。しかし彼らは、ボールを得るか、又は相手コート内にいるとき同時に3人がコート外に出て別の3人がコートに入りプレー中の3人を補強する。そのあと攻撃の再組立てをはじめるのである。我々は時として、ボールを長く持ちすぎるとみて罰することがある。しかしチーム側としてはシュートポジションを追求するための動きであると考えている。相手側は防御でよく頑張ったが結果はおもわしくなかった。このような状況を斟酌考慮した上での型式主義に結びつけることは可能で、オランダでのB世界選手権での例を挙げてみる。スペインチームが1点差で敗れたが、この時スペインはこの結果は絶対に引分けが当然であると言い出した。このチームは相手チームプレイヤーの1人が2分退場をうけていたため本当に絶好の勝てる可能性を持っていた。フィールドプレイヤーが6対5の関係であったことを度外視してもスペインチームはシュートチャンスやシュートポジション獲得はうまくいかなかった。相手チームが罰せられていることは論外として、このチームはレフェリー（ベストを評されているうちの1人）の判断により、ボールは押収（反対側チームの所有になること）された。それはスペインチームが長くボールを持ちすぎたと見られたからである。実際にはスペインチームは攻撃をしようとチャンスを探していたのであり、一生懸命努力を傾けて点とることを目指したのであるが、相手防御のやり方が結果的に効果的だったということになる。

我々が攻めているチームが攻める行動を示さないならば、たとえ彼らが攻めてゴールを得ることに夢中であるとしても認めるわけにはいかないのであり、ボールを押収（相手ボールにする）することになる。我々がもしゴールへシュートの意志が明らかであると認めれば、それを肯定しプレーをおわり（その場面の結末まで）まで続けさせることは明らかである。我々がずっと以前から決定していたこと、たとえば次の場合、サイドライン付近にいるプレイヤーがゴールにボールを投げるかわりに他のフリースローライン付近の同僚プレイヤーにパスをした後シュートとなったり、パスをうけたプレイヤーが決定的なシュートを狙ってゴールエリアライン付近で待機しているプレイヤーにボールを移したりして攻撃を完全にしようとする行為は、我々が心からの喝采をもって歓迎するところであり、これは監督者についても同様のことである。

消極的試合に関しては、どんなときに、どんな状況が本当に罰せられるものとなるのか？　そして他方どんな試合状況がチームをしてパッシブゲームをとらざるをえなくなるのか？、

我々はミンクスチームが3人のプレイヤーでも攻めることをあきらめなかったし、またグンメルスバッハチームもヴンダリッヒが攻めに参加していない状態でもパッシブゲーム傾向をとらなかったことを知っているが、このことは検討顧慮すべきであろう。このことは我々がもっと深く考えて共通一体的な考え方に到達しなければならない。

第10回 全国教員養成大学研修会



協会独自の事業としてスタート
—参加者約200名で実のある研修—

将来教員を目指す大学生を対象として開催されているこの研修会は、7月26日～30日まで筑波大学で開催された。

協会の普及対策の一方の柱であるこの研修会も、年々充実し、その目的を果しつつあるわけだが、今年から日体協からの補助が打ち切られ（所期の目的を達成したという理由で）台所の苦しい協会としては窮地に立たされたわけで、ハンドボールの現状を考えた時、指導者の養成が急務であることから協会独自の事業として続けられることになった。

参加者は200名弱となり、受け入れ態勢も大変であったが、無事終了することができた。

ほとんどの大学が、日頃から指導者もおらず、自分たちだけで、活動している者たちであるので、研修会で、ハンドボールの専門家から直接学ぶことは、非常に有意義であり、実のある研修会となっている。今後ともますます実のある研修会となるような内容を考慮し、末長く継続していく必要があるだろう。

1　役員・講師・補助員

本田娟一、李寿昶、山崎武、北井晴次、高松薫、大西武三、飯田信行、水上一、小山哲央、大村久、岡本研二、河村英明、河村レイ子、土井秀和、佐藤靖、村松誠、笹倉清則、清水宣雄、田中守、北村善雄、筑波大男女ハンドボール部。

2　参加チーム

＜男子＞　滋賀大(11)、都留文化大(16)、筑波大医学部(6)、金沢大(9)、宮城教育大(6)、広島大(6)、群馬大(10)、信州大(13)、山形大(5)、計82名。

＜女子＞　横浜国立大(6)、滋賀大(13)、都留文化大(9)、天理大(7)、神戸大(12)、京都女子大(6)文教大(10)、奈良女子大(11)、創価大(11)、宮城教育大(8)、茨城大(2)、千葉大(8)、愛知学院大(5)、山形大(3)、岩手大(1)、計112名。男女合計194名。

3　研修会賞

午前や、午後の練習の最後に、技術・戦術のまとめとして、ミニゲームが行われるが、ミニゲームの成績のよいチームに、研修会賞としてトロフィーが贈られた。男子は金沢大学、女子は天理大学であった。

4　講習内容

午前は主に基礎的な技術の講習を行なうが、グループの編成は、経験別にしており、技両に応じた形で練習できるようになっている。午後は、主にチームプレーの講習を行なっている。同一大学でチームを組み、人数の少ないチームは、混合チームを作って練習を行なっている。

講習の内容は、グループやチームによって異っているが、だいたい次のようなものです。

夜は、一日目は親睦会、二日目は、希望によって次の内容の講習を行なった。①ハンドボールの体力トレーニング　②ルールと審判法　③国際試合のビデオや映画、

4　4日目は、それぞれのチームでミーティングをするなど、チームの独自性にまかせている。

研修日誌

◇7月27日　午前　天候　晴　場所　新多目的グラウンド　チーム名　Cチーム　講師名　佐藤先生

記入者　古谷有紀

＜教育内容＞フェイント練習・0歩のフェイント・ステップシュートモーションからのフェイント・ディフェンスが出てきた場合のフェイント・左右45°からのフェイントかけ　パスへの連続

＜感想＞いままでフェイント練習だけをこれほど徹底してやったことがないので、たいへんいい経験をさせていただきました。切りかえし後のスピードやタテに切り込


戦術面の練習も熱心に…

むことの重要性を教えていただき大学へ帰ってからもう一度よく練習して試合で使えるようになりたいと思います。

◇7月27日　午後　天候　雷雨　場所　新多目的グラウンド　チーム名　神戸大学　講師名　清水先生　記入者　古谷育紀

∧教育内容∨シュート練習・3対2からのシュート・チームオフェンス（創価大と6対6）・ダブルポストのオフェンス練習

∧感想∨2人のポストと2人のフローターとの連繋プレーを何度も繰り返し練習することにより、いままでわけもわからず動いていた私たちにとって何かをつかみはじめることができたような気がします。また一緒に練習していただいた創価大学のプレーもたいへん参考になりました。

◇7月28日　午前　天候　晴　場所　新多目的グラウンド　チーム名　F班　広島大学　講師名　李寿昶　記入者　飯島浩太

∧教育内容∨・ウォーミングアップ　サイドステップ　バックステップ　ディフェンスのつめ　・3対3（ボールなしで）　・チームディフェンス　0：6から1：5　2：4　1：2：3への変化　・ミニゲーム　対滋賀大　13－6で勝ち

∧感想∨ディフェンスのいろいろな練習方法を教えていただいた。いままでは比較的にディフェンスの練習がおろそかになりがちだったが、今日教えていただいたことを取り入れ、さらに力を入れていきたいと思います。ゲームはオフェンスでは速攻がわりとよく決まったが、遅攻では個人的プレーが目立ち、コンビプレーがあまりできなかった。またディフェンスはフットワークが悪く相手の正面で守ってないのでPTをとられることが多かった。

◇7月28日　午後　天候　くもり　場所　体育館、多目的グラウンド　チーム名　広島大学　講師名　大村　久、山崎　武　記入者　飯島浩太

∧教育内容∨・GKの講習　GKの基本　練習方法　・ランパス　・速攻（3人、4人、5人）サイドのまわりこみを利用して　・ミニゲーム　対筑波大C　9－12で負け　対筑波大B　5－10で負け

∧感想∨今回はGKは来ていませんが、今日教えていただいたことをチームにもどってぜひ取り入れたいと思います。ゲームではやはり基本的な体力の違いを感じました。そしてディフェンスがあまくなかった。1対1がまだ十分に守りきれていなかった。ただオフェンスにおいては各選手が思いきったプレーができたことはよかったと思います。

◇7月29日　午前　天候　晴　場所　チーム名　滋賀大学　講師名　大西先生　李先生　山崎先生　飯田先生　記入者　新家道正

∧教育内容∨（講義）先生方の経験をもとにして、ハンドボールに対するとり組み方、また日本、韓国等のハンドボール界の現状についての話。

∧感想∨特に李先生の話は興味深く聞き入った。自分も含めハンドボールをやっている日本人の甘さというものがしみじみ感じられた。設備、人材とも恵まれているのだからやる以上はもっともっと真剣にとり組まなければならないと思った。

◇7月29日　午後　天候　くもり　場所　グランド　チーム名　滋賀大学　講師名　北井先生　記入者　新家道正

∧教育内容∨①サイドから切り込み　45度へパスをしてシュートを打たせる　②ポストをおいて2対1で攻撃する　③3対3で平行にパラレル攻撃　④6対6の攻防

∧感想∨パスを送るタイミングがとても大切であることがわかった。今まで自分たちのチームは自分でボールを持ちすぎていたように思う。とくに筑波大のパスまわしを見て、必要以上に自分でボールを持っていないということに気づき見習いたいと思った。

◇7月30日　午前　天候　晴　場所　グランド　チーム名　文教大学　講師名　笹倉先生　記入者　加藤尚美

∧教育内容∨ゲーム　対京都女子大　2－2　同点　対神戸大　2－1　負け・サイドは1試合に1本は必ずサイドシュートを打って相手のディフェンスを広げる・昨日までに教ったダブルの攻めの立てブロックやクロスを試みる・今後も数をこなしてあわせていく・速攻の守りに戻った時、サイドの方へ追い込み片方をつめる

∧感想∨昨日までに教わったダブルの攻めがまだまだ合っていないので、今後の練習で習得しなければならないと思いました。ディフェンスはかなり良くなったとは思いますがまだマークがずれてしまうことがあるので、声を出してしっかりチェックするようにします

各地の記録

男子21回女子10回中国四国学生秋季リーグ戦
（10月22、23、29、30日）

▽男子1部
愛媛大 26－13 鳥取大
愛媛大 38－21 島根大
愛媛大 25－19 修道大
愛媛大 17－17 広島大
広島大 24－9 修道大
広島大 30－16 鳥取大
広島大 30－21 島根大
鳥取大 30－29 修道大
鳥取大 26－25 島根大
修道大 22－19 島根大
（順位）①広島大②愛媛大③鳥取大④修道大⑤島根大

▽男2子部
山口大 26－18 松山商大
山口大 25－15 広島工大
山口大 25－19 岡山大
山口大 25－18 高知大
岡山大 23－13 高知大
岡山大 28－15 広島工大
岡山大 23－13 松山商大
松山商大 28－20 高知大
松山商大 25－16 広島工大
高知大 25－16 広島工大
（順位）①山口大②岡山大③松山商大④高知大⑤広島工大

▽男子3部
徳山大 18－13 近大呉工
徳山大 28－24 香川大
徳島大 21－18 徳山大
徳島大 17－13 近大呉工
香川大 27－25 徳島大
香川大 30－24 近大呉工
（順位）①徳山大②徳島大③香川大④近畿大呉工学部

▽女子
岡山県短 27－11 岡山大
岡山県短 27－8 高知大
岡山県短 37－10 香川大
岡山県短 23－9 山口大
山口大 9－6 岡山大
山口大 25－11 高知大
山口大 19－8 香川大
岡山大 23－12 高知大
岡山大 31－11 香川大
高知大 28－16 香川大

北信越学生秋季リーグ戦
（10月29、30日）

▽1部リーグ
金工大 23－15 長野大
金沢大 26－18 富山大
金工大 26－20 信州大
金沢大 25－19 長野大
信州大 26－15 富山大
富山大 26－19 長野大
信州大 31－15 金沢大
金工大 23－16 富山大
信州大 26－18 長野大
金沢大 16－14 金工大
（順位）①信州大②金沢工業大③金沢大④富山大⑤長野大

▽2部リーグ
新潟大 33－14 富医大
福井大 34－10 金美大
富医大 40－9 金美大
福井大 22－10 富医大
新潟大 34－11 金美大
新潟大 26－20 福井大
（順位）①新潟大②福井大③富山医科薬科大④金沢美術工芸大

第33回茨城県総合選手権
（10月30日、11月3日）

＜男子＞
▽1回戦
土浦三OB 22－13 水戸一高
水海道一高 22－15 鉾田クラブ
桜水クラブ 18－15 勝田高
岩井高 23－12 大和クラブ
土浦一高 15－11 八郷高
日本原研 33－7 勝田工
筑波振球会 47－13 竹園高
筑波大 41－8 土浦三高
筑波会 12－0 茨城クラブ

▽2回戦
茨苑クラブ 30－10 土浦三OB
水海道一高 25－16 動燃東海
笠間高 24－10 桜水クラブ
岩井高 25－16 麻生高
茎崎クラブ 19－7 土浦一高
麻生クラブ 35－13 日本原研
筑波振球会 20－19 筑波大
茨城大 28－4 筑波大

▽準々決勝
水海道一高 23－22 茨苑クラブ
笠間高 22－21 岩井高
麻生クラブ 30－21 茎崎クラブ
筑波振球会 23－16 茨城大

▽準決勝
水海道一高 36（18－12 18－8）20 笠間高
筑波振球会 32（19－12 13－13）25 麻生クラブ

▽決勝
筑波振球会 34（17－9 17－8）17 水海道一高

＜女子＞
▽1回戦
潮来高 26－3 笠間高
八郷高 14－11 高萩高
土浦三高 15－6 筑波ラバーズ
鉾田二高 16－9 竜ケ崎二高
結城二高 14－12 太田二高

▽2回戦
水海道二高 25－6 潮来高
八郷高 14－4 土浦三高
鉾田二高 12－11 竜ケ崎二OG
麻生高 17－13 結城二高

▽準決勝
水海道二高 14（6－4 8－1）5 八郷高
麻生高 11（7－2 4－8）10 鉾田二高

▽決勝
水海道二高 21（11－6 10－6）12 麻生高

第13回近畿クラブ対抗選手権
（11月3日）

＜男子＞
ブルーウイングス 11－8 生駒ク
東山ク 13－8 和商ク
ブルーウイングス 11－11 鈴蘭台ク
生駒ク 12－10 京セラHBク
鈴蘭台ク 9－8 和商ク
東山ク 16－14 京セラHBク
和商ク 9－8 ブルーウイングス
生駒ク 10－6 鈴蘭台ク
和商ク 10－9 京セラHBク
鈴蘭台ク 10－6 東山ク
ブルーウイングス 11－11 京セラHBク
生駒ク 10－6 和商ク
東山ク 14－8 ブルーウイングス
鈴蘭台ク 9－8 京セラHBク
生駒ク 11－10 東山ク
（順位）①生駒ク②鈴蘭台ク③東山ク④和商ク⑤ブルーウイングス⑥京セラHBク

＜女子＞
わかくさク 7－1 大阪コスモス
風見鶏ク 9－6 滋賀ク
古都ク 7－6 わかくさク
風見鶏ク 7－3 大阪コスモス
古都ク 8－4 滋賀ク
風見鶏ク 9－6 わかくさク
大阪コスモス 6－5 滋賀ク
古都ク 8－5 風見鶏ク
滋賀ク 11－7 わかくさク
古都ク 5－4 大阪コスモス
（順位）①古都ク②風見鶏ク③わかくさク④滋賀ク⑤大阪コスモス

富山県高校新人戦
（11月3、5、6日）

＜男子＞
▽1回戦
氷見 28－9 高岡
八尾 20－11 富山工
富山中部 21－8 富山

▽2回戦
氷見 34－4 高岡南
小杉 14－9 大沢野工
新湊 20－3 富山東
富山南 14－13 八尾
高岡商 19－18 富山工専
高岡向陵 25－6 二上工
富山商 18－8 伏木
富山中部 12－11 雄山

▽準々決勝
氷見 24－15 小杉

新湊 17－6 富山南
高岡向陵 33－8 高岡商
富山商 18－17 富山中部
▽準決勝
氷見 42（22－4、20－4）8 新湊
高岡向陵 31（15－5、16－6）11 富山商
▽決勝
氷見 21（10－10、11－5）15 高岡向陵

＜女子＞
▽1回戦
高岡女 12－11 高岡第一
富山北部 22－3 新湊
有磯 11－5 小杉
▽2回戦
富山女 12－12（PTC 3－1）高岡女
富山北部 22－9 高岡
高岡向陵 19－11 富山女短付
高岡商 17－10 有磯
▽準決勝
富山北部 8（5－0、3－3）3 富山女
高岡商 24（11－8、13－7）15 高岡向陵
▽決勝
高岡商 16（11－3、5－4）7 富山北部

富山県秋季選手権
（11月13、20日）

＜一般男子＞
▽1回戦
向陵ク 26－18 北嶺会
想球会 21－12 射水ク
八尾ク 23－17 高商OB
▽2回戦
教員B 31－22 向陵ク
氷見ク 18－17 想球会
教員A 25－12 杉原ク
氷見クシ 29－13 八尾ク
▽準決勝
教員B 26（13－12、13－8）20 氷見ク
氷見クシ 24（10－11、14－11）22 教員A
▽決勝
氷見クシ 23（11－11、12－10）21 教員B

＜一般女子＞
▽1回戦
高商OG会 11－8 想球会
▽2回戦
高商OG会 15－13 高女OG
桜球会 11－7 向陵OG
▽決勝
桜球会 13（7－6、6－2）8 高商OG会

＜一般女子二部＞
▽決勝
コスモス 9（4－5、5－2）7 あじさい

第10回千葉県総合選手権
（10月29、30日、11月3日）

＜男子＞
▽1回戦
海自下総 27－3 木更津高
日産石油化学 12－0 渋谷学園幕張高
若潮クラブB 35－23 木更津クラブ
佐原高 12－0 出光石油千葉
千葉大B 19－16 東邦高OB
市川FOG 20－13 市原クラブ
道野辺クラブ 19－18 我孫子高
小金クラブ 26－13 佐原高B
▽2回戦
千葉教員 28－15 海自下総
日産石油化学 29－21 千葉大A
八千代高 28－18 若潮クラブB
佐原高 18－17 若潮クラブA
市川FOG 24－15 千葉大B
市川高 29－11 柏南高
佐原クラブ 28－8 道野辺クラブ
小金クラブ 12－0 三井石油化学
▽準々決勝
千葉教員 36－9 日産石油化学
佐原高A 13－13（PTC 3－2）八千代高
市川FOG 18－17 市川高
佐原クラブ 18－12 小金クラブ
▽準決勝
千葉教員 25（12－5、13－1）6 佐原高A
佐原クラブ 13（6－5、7－6）11 市川FOG
▽決勝
千葉教員 34（17－2、17－5）7 佐原クラブ

＜女子＞
▽1回戦
佐原メッツ 12－0 手児奈クラブ
佐原高 10－8 泉高
佐原女高A 14－7 柏南高
▽2回戦
千葉クラブ 28－3 佐原メッツ
佐原女高B 15－3 佐原高
佐原女高A 12－3 千葉明徳高
水郷クラブ 13－9 朝顔クラブ
▽準決勝
千葉クラブ 16（8－5、8－3）8 佐原女高B
佐原女高A 10（5－6、5－2）8 水郷クラブ
▽決勝
千葉クラブ 31（11－2、20－3）5 佐原女高A

ロスへ！みんなで応援に行こう！

★★★★★★★★

日本男子チームが出場するロス・オリンピックハンドボール競技は別記日程で行なわれます。

日本のハンドボールファンにとっては、日本チームに是非とも入賞してほしいところ。日本ハンドボール協会としても、ちょうど夏休みに行なわれるオリンピックに、多勢のファンが応援に行ってほしいと考えています。

そこで、数業者の企画の中から最も低廉で、信頼もおけるISSA社の企画をご紹介いたします。ハンドボール競技の入場券は58人分確保されています。

☆Aコース（20名） 7／30成田発7／31の初戦から前半8／4まで観戦して8／7に成田着（7泊9日）毎朝食、1日1食機内食、競技場までのバス代、市内観光、ディズニーランド観光代、空港税、傷害保険込みで1人41万円（添乗員付）

☆Bコース 8／6成田発、8／6から後半決勝戦まで観戦して8／13成田着（6泊8日）その他はAコースと同じ条件で1人40万円

☆Cコース 7／30成田発。初戦から全試合を観戦して8／13に成田着（13泊15日）その他はAコースと同じ条件で1人53万円

宿舎はロサンゼルスのダウンタウンにあるペンションスタイルのゲストハウスで、日本人スタッフがサービスしてくれます。ホテルとは違った開放感あふれるムードで、応援団の宿舎には恰好のものです。

☆ロサンゼルスでは、オリンピックをあてこんで宿泊施設の料金が平常の2～3倍につり上げられております。早急に予約金を預託する必要がありますので、参加ご希望の方は、来たる2月15日までに、申込金20万円を下記口座に振り込んで、下記までお申込みください。

☆いずれかのコースが20名を前後した場合は他のコースに振替えなど調整させていただきます。

企画　ISSA
〒104　東京都中央区銀座3－11－14　ダパクリエートビル2階
電話(03)542－0879

旅行主催　㈱東京航空サービス（一般旅行業第93号）

旅行取扱い　㈱トラベルランドコーポレーション

振込先　第一勧業銀行高田馬場支店　普通預金口座　No.1269956　㈱トラベルランドコーポレーション　名義

ロスオリンピック・ツアー募集

●ロスアンゼルスオリンピック・ハンドボール競技日程●

☆会場　ロサンゼルス・アナハイムのカリフォルニア州立大学フラートン校スポーツボール。1～4位戦のみロス市内フォーラム

☆出場国〈男子・Aグループ〉ルーマニア　アメリカ大陸　ポーランド　アフリカ大陸　ソ連　チェコ
〈Bグループ〉東ドイツ　日本　ユーゴ　ハンガリー　デンマーク　USA
〈女子〉ユーゴ　三大陸勝者　ソ連　ヨーロッパB予定勝者　ハンガリー　USA

☆組合せ〈男子1次リーグ〉

7月31日　東ドイツ－日本〈11時〉
ルーマニア－アメリカ大陸〈18時30分〉
ユーゴ－ハンガリー〈12時30分〉
デンマーク－USA〈14時〉
ソ連－チェコ〈21時30分〉

8月2日　ソ連－アメリカ大陸〈11時〉
ユーゴ－日本〈18時30分〉
ポーランド－チェコ〈12時30分〉
デンマーク－ハンガリー〈20時〉
ルーマニア－アフリカ大陸〈14時〉
東ドイツ－USA〈21時30分〉

8月4日　ハンガリー－日本〈11時〉
チェコ－アメリカ大陸〈18時30分〉
デンマーク－東ドイツ〈12時30分〉
ソ連－アフリカ大陸〈20時〉
ユーゴ－USA〈14時〉
ポーランド－ルーマニア〈21時30分〉

8月6日　ポーランド－アメリカ大陸〈11時〉
デンマーク－日本〈18時30分〉
ソ連－ルーマニア〈12時30分〉
ユーゴ－東ドイツ〈20時〉
チェコ－アフリカ大陸〈14時〉
ハンガリー－USA〈21時30分〉

8月8日　ユーゴ－デンマーク〈11時〉
日本－USA〈18時30分〉
東ドイツ－ハンガリー〈12時30分〉
ルーマニア－チェコ〈20時〉
アメリカ大陸－アフリカ大陸〈14時〉
ソ連－ポーランド〈21時30分〉

〈男子順位決定戦〉

8月10日　Aグループ4位－B4位〈11時〉
A3－B3〈12時30分〉
A5－B5〈20時〉
A6－B6〈21時30分〉

8月11日　Aグループ1位－Bグループ1位〈14時〉
Aグループ2位－Bグループ2位

〈女子〉

8月1日　ユーゴ－三大陸勝者〈18時30分〉
ソ連－ヨーロッパB〈20時〉
ハンガリー－USA〈21時30分〉

8月3日　ソ連－三大陸〈18時30分〉
ハンガリー－ヨーロッパB〈20時〉
ユーゴ－USA〈21時30分〉

8月5日　ヨーロッパB－三大陸〈18時30分〉
ソ連－USA〈20時〉
ハンガリー－ユーゴ〈21時30分〉

8月7日　ハンガリー－三大陸〈18時30分〉
ヨーロッパB－USA〈20時〉
ソ連－ユーゴ〈21時30分〉

8月9日　ユーゴ－ヨーロッパB〈18時30分〉
三大陸－USA〈20時〉
ソ連－ハンガリー〈21時30分〉



生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

adidas®

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二二五号
昭和四十年六…七日 第三種郵便物認可
昭和五八年十一月二十五日 印刷
昭和五八年十二月 一 日 発行
…渋谷区神南一ー一ー一
代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)